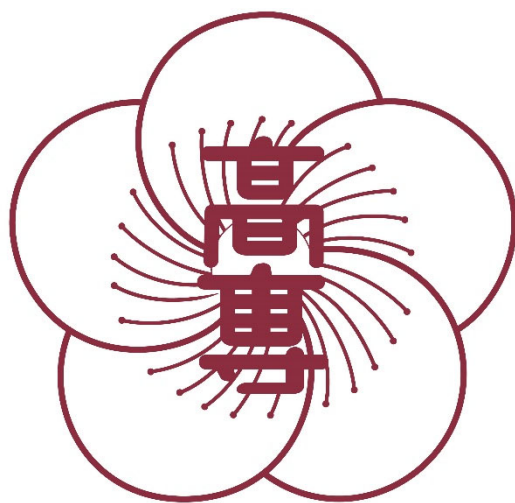


# 平成30年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

## 目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	9
3. 教育内容等（専攻科委員会）	16
4. 学生支援（学生委員会）	19
5. 寮生支援（寮務委員会）	26
6. 広報活動（広報委員会）	29
7. 学生健康支援（学生健康センター）	32
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	35
9. 情報化推進（学術総合情報センター）	41
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	44
11. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）	55
12. 地域連携・研究活動	
（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）	57
13. 教育組織（教員任用審査会）	66
14. 教育支援組織（事務部）	69
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	71
16. 予算及び施設・整備（総務委員会）	76
17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	78
18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	81

## 1. 学生の受入（入学試験委員会）

### (1) 取組実績

#### ① 入試広報活動

##### 1) 平成 30 年度地区別学校説明会の実施

実施地区	日 時	場 所	参加人数
つくば地区	7 月 21 日（土） 9:30～11:30	つくば国際会議場	69 人
鹿嶋地区	7 月 21 日（土） 9:30～11:30	鹿嶋勤労文化会館	30 人
取手地区	7 月 22 日（日） 9:30～11:30	取手市立福社会館	29 人
本校会場	7 月 22 日（日） 9:30～11:30	本校大教室	245 人
常陸大宮地区	8 月 4 日（土） 9:30～11:30	常陸大宮文化センター	45 人
土浦地区	8 月 4 日（土） 9:30～11:30	土浦市総合福社会館	60 人
日立地区	8 月 5 日（日） 10:30～12:30	日立シビックセンター	86 人
笠間地区	8 月 5 日（日） 9:30～11:30	笠間市立笠間公民館	34 人
本校一日体験入学	9 月 22 日（土） 9:30～15:00	本校第 1 体育館	868 人

計 1,466 人

\* 学校概要、卒業生の進路状況、入試制度及び募集要項等について説明を行った。

\* これまで水戸地区で実施していた説明会を大人数収容会場や駐車場確保等のため、本校会場で実施した。本校会場では、専攻科女子学生による学校紹介を行った。

\* 参加者は、説明会全体で 1,466 人となり前年度より 188 人増加した。

##### 2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会の実施

回	日 時	場 所	参加人数	合計
第 1 回	8 月 24 日（金） 14:00～16:00	本校大会議室	23 人	76 人
第 2 回	9 月 20 日（木） 14:00～16:00	本校大会議室	18 人	
第 3 回	11 月 21 日（水） 14:00～16:00	本校大会議室	35 人	

\* 開催案内通知は、茨城県内中学校（224 校）に送付し、出欠の回答を依頼した。

\* 学校概要、卒業生の進路状況、平成 31 年度入学者募集要項及び出願手続等について説明を行った。

##### 3) 中学校主催学校説明会

県内中学校からの依頼により担当者を派遣し、高校進路説明会等において本校の説明を行った。志願者の多い近隣中学校では、3 学年担任会等でも説明を行った。

平成 30 年度は 7 月～11 月までに 23 件の依頼があり、中学生：850 人、保護者：637 人、教師：99 人の参加があった。

#### 4) 中学校訪問

9月3日(月)～9月21日(金)の期間に全教員が分担して県内中学校を訪問し、学校概要、教育の特徴、卒業生の進路状況、平成31年度入学者募集及び出願手続等について説明を行い、また、中学校の現状について情報収集し、相互理解の向上に努めた。

実施前の8月27日(月)13:00～中学校訪問説明会を大会議室で実施した。

平成30年度は、中学校主催学校説明会参加校及び県西地区中学校の一部を除く167校を訪問した。

#### 5) 一日体験入学・学校説明会

9月22日(土)9:30～15:00(受付9:00～) \*参加者数868人

\*学校説明会 9:30～10:50 第1体育館

模擬授業 (10:50～13:45 4回)	模擬実験 (10:50～14:20 5回)
機械・制御系 ①系のお話早わかり ②フーコーの振り子 ③身近なロボットと人工知能 ④ロボットとセンサ	機械・制御系 ①流れの科学 ②磁力のふしぎな力 ③レゴロボプログラミング ④C言語によるマイコンロボ制御
電気・電子系 ①クリーンエネルギーの秘密 ②10万ボルトの秘密	電気・電子系 ①10万ボルトにタッチ！ ②電気自動車に乗ろう
情報系 ①「情報化」社会へGo！ ②C言語でプログラミング	情報系 ①2進数で計算してみよう (デジタル回路の基礎) ②コンピュータグラフィックスを体験しよう
化学・生物・環境系 ①バイオ早わかり講座 ～これであなたもバイオものしり博士～ ②地球環境と高専と魚？	化学・生物・環境系 ①ミステリーツアー&化学サイエンスショー ②世界を変えた新素材ナイロンを作ろう！ ③化学の力でコルクロケットを飛ばそう！

#### \*その他イベント

校内見学ツアー(4回)、学寮案内(3回)、入試制度の説明(3回)、進路相談、学生Café(学生会企画)、クラブ活動紹介、ロボコン出場マシンの公開テストラン

\*グラウンドを臨時駐車場として使用し、臨時警備員3人により校内通行車両の誘導を行い、参加者の安全確保に努めた。

#### 6) 学校見学希望者への対応

中学生及び保護者からの個別依頼に対応し、校内施設見学案内、学校概要説明、進路相談及び受験案内等を行った。

平成30年度は、8月～12月に5件(12人)の見学者があった。

## 7) 入試広報資料の作成

種 類	名 称	部数	備考
パンフレット	学校案内「What's 茨城高専?」	7,500 部	ホームページ公開
リーフレット	学校説明会（地区説明会）	30,000 枚	ホームページ公開
リーフレット	一日体験入学&学校説明会	28,000 枚	ホームページ公開
ポスター	一日体験入学&学校説明会	250 枚	
パンフレット	学校説明会資料	5,000 部	
リーフレット	受験のしおり	5,000 枚	
リーフレット	茨城高専の学寮案内	4,000 枚	

\* 入試広報資料は、入試広報活動全般において中学生、保護者、中学校教員及び学習塾関係者等へ配布した。

\* 学校説明会案内リーフレットは、茨城県内中学校：224 校（3 年生の生徒数＋学校 5 枚の約 27,000 枚）、栃木・千葉県内中学校：98 校（各校 10 枚の約 1,000 枚）、県内外学習塾：902 校（各 2 枚の約 2,000 枚）に送付した。

\* 一日体験入学&学校説明会案内リーフレット及びポスターは、茨城県内中学校：224 校に送付した。

## 8) 募集要項の作成

- ・平成 31 年度本科入学者募集要項 … 2,800 部印刷、県内中学校へは中学校訪問で持参、県外中学校、学習塾等へは送付
- ・平成 31 年度第 3 学年編入学者（外国人対象）募集要項 … 高専機構で全国高専作成
- ・平成 31 年度第 4 学年編入学者募集要項 … 350 部印刷、高等学校へ送付
- ・平成 31 年度専攻科入学者募集要項 … 350 部印刷、全国高専へ送付

## ②入学試験委員会の開催

### 1) 第 1 回

日時：平成 30 年 5 月 17 日（木）16：10～16：38（場所：中会議室）

議題：1）平成 31 年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について

2）平成 31 年度第 4 学年編入学試験業務日程（案）について

3）平成 31 年度第 4 学年編入学生募集要項（案）について

4）平成 31 年度第 3 学年編入学試験（外国人対象）日程について

5）平成 31 年度外国人留学生受入可能数について

6）平成 30 年度本科入学試験状況について

7）平成 31 年度入学者選抜試験日程（案）について

8）その他

2) 第2回

日時：平成30年6月19日（火）16：10～16：55（場所：中会議室）

- 議題：1. 平成31年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について  
2. 平成31年度入学者募集要項（案）について  
3. その他

3) 第3回（運営会議合同会議）

日時：平成30年7月12日（木）15：10～15：20（場所：中会議室）

- 議題：1. タイ政府奨学金留学生・2019年度志願者向け入学試験における判定方法について

4) 第4回

日時：平成30年9月13日（木）11：00～11：35（場所：大会議室）

- 議題：1. 平成31年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について  
2. タイ政府奨学金留学生・2019年度入学者選抜に係る合否判定について  
3. タイ政府奨学金留学生・2019年度入学試験の合否判定における不合格者  
又は辞退者が出た場合の補欠合格候補者繰上げの方法について  
4. その他

5) 第5回

日時：平成30年10月24日（水）16：30～17：10（場所：中会議室）

- 議題：1. 平成31年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について  
2. 平成31年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について  
3. 平成31年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜試験  
業務日程表（案）について  
4. 2020年度第4学年編入学生選抜試験日程及び主専攻別出題科目（案）について  
5. その他

6) 第6回

日時：平成30年11月15日（木）16：10～16：18（場所：中会議室）

- 議題：1. 2020年度第4学年編入学試験主専攻別出題科目（案）について  
2. その他

7) 第7回

日時：平成31年1月10日（水）16：10～16：35（場所：大会議室）

- 議題：1. 2020年度入学者選抜試験日程について  
2. 2020年度専攻科入学者推薦選抜試験業務日程表について

3. 2020 年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別選抜試験業務日程表について
4. 平成 31 年度入学者推薦選抜試験の実施について
5. その他

#### 8) 第 8 回

日時：平成 31 年 1 月 24 日（木）11：00～11：20（場所：大会議室）

- 議題：1. 平成 31 年度入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. 平成 31 年度第 3 学年編入学試験（外国人対象）に係る合否判定について
  3. その他

#### 9) 第 9 回

日時：平成 31 年 2 月 6 日（水）15：10～15：45（場所：大会議室）

- 議題：1. 2020 年度専攻科学生募集要項（案）について
2. 平成 31 年度入学者選抜学力検査及び外国人特別選抜試験の実施について
  3. その他

#### 10) 第 10 回

日時：平成 31 年 2 月 20 日（水）11：00～11：33（場所：大会議室）

- 議題：1. 平成 31 年度入学者選抜試験合格者の判定について
2. その他

### ③入学試験の実施

#### 1) 平成 31 年度本科入学者選抜試験

- ・ 推薦選抜願書受付：平成 31 年 1 月 7 日（月）～1 月 9 日（水）
- ・ 推薦選抜適性検査、面接試験：平成 31 年 1 月 22 日（火）
- ・ 推薦選抜合格内定者発表：平成 31 年 1 月 28 日（月）10：00 屋外掲示板
- ・ 入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜、外国人特別選抜  
願書受付：平成 31 年 1 月 29 日（火）～2 月 1 日（金）
- ・ 推薦選抜合格内定者入学確約書提出期限：平成 31 年 2 月 12 日（火）
- ・ 入学者選抜学力検査、外国人特別選抜：平成 31 年 2 月 17 日（日）本校・土浦検査場  
（帰国子女特別選抜は、出願者なし。）
- ・ 合格者発表：平成 31 年 2 月 22 日（金）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・ 学力選抜合格者入学確約書提出期限：平成 31 年 3 月 1 日（金）
- ・ 入学手続説明会：平成 31 年 3 月 5 日（火）10：00～ 本校第 1 体育館

○ 平成 31 年度本科入学試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜		
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数
国際創造工学科	200	351 (57)	348 (57)	204 (33)	1.8	120 (33)	120 (33)	52 (12)	297 (44)	294 (44)	152 (21)

学科	帰国子女特別選抜			外国人特別選抜			入学者数	タイ留学生入学者数	入学者数合計
	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数			
国際創造工学科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	202 (33)	2 (0)	204 (33)

※1 下段（ ）は女子で内数

2) 平成 31 年度第 3 学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第 3 学年編入学試験

志望系	人数(国籍)	本校志望順位	合格者数	入学者数
機械・制御系	2（ベトナム）	第 2・第 3 志望	1（第 2 志望）	0
電気・電子系	1（ベトナム）	第 5 志望	0	0

\* 本校第 3 学年編入学試験（外国人対象） 合否判定基準に基づき合否を判定

3) 平成 31 年度第 4 学年編入学試験

- ・編入学願書受付：平成 30 年 8 月 20 日（月）～ 8 月 22 日（水）
- ・編入学試験：平成 30 年 9 月 10 日（月）
- ・合格者発表：平成 30 年 9 月 18 日（火）13：00 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・入学確約書提出期限：平成 30 年 11 月 30 日（金）
- ・確約書提出者に対する説明会：平成 30 年 12 月 11 日（火）15：30～
- ・入学手続説明会：平成 31 年 3 月 6 日（水）9：00～ 図書館棟スタディールーム

○ 平成 31 年度編入学試験状況

募集学科	出願者数（高校：科）	受験者数	合格者数	入学者数
機械システム工学科	3（機械、普通、高認）	3	1	1
電子制御工学科	4（機械、普通）	4	0	0
電気電子システム工学科	2（電気）	2	2	2
電子情報工学科	0	0	0	0
物質工学科	2（普通）	2	1	1



4) 平成 31 年度専攻科入学者選抜試験

- ・ 推薦選抜願書受付：平成 30 年 5 月 7 日（月）～ 5 月 8 日（火）
- ・ 推薦選抜面接試験：平成 30 年 5 月 16 日（水） \*本校以外からの受検者なし  
（本校からの受験者については各学科からの推薦に基づき総合的に合否判定）
- ・ 推薦選抜合格者発表：平成 30 年 5 月 22 日（火） 12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・ 推薦選抜合格者入学確約書提出期限：平成 30 年 6 月 8 日（金） 17 時
- ・ 学力選抜、社会人特別選抜願書受付：平成 30 年 5 月 30 日（水）～ 6 月 1 日（金）
- ・ 入学者選抜学力検査：平成 30 年 6 月 16 日（土） 数学、専門科目  
（社会人特別選抜は、出願者なし。）
- ・ 合格者発表：平成 30 年 6 月 22 日（金） 12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・ 学力選抜合格者入学確約書提出期限：平成 30 年 10 月 31 日（水）

○ 平成 31 年度専攻科入学試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20 人）

推薦選抜		学力選抜			入学者数
出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	
機械システム工学科(0) 電子制御工学科(1) 電気電子システム工学科(6) 電子情報工学科(7) 物質工学科(6) 計 20 人	20	29	25	16	28

④外国人留学生の受入

学年	学科（主専攻系）	性	国籍	身分	備考
1 年	国際創造工学科 （機械・制御系）	男	タイ	政府派遣	第 2 期タイ政府 奨学金留学生受 入事業
	国際創造工学科 （化学・生物・環境系）	男	タイ	政府派遣	
3 年	国際創造工学科 （機械・制御系）	男	マレーシア	政府派遣	
	国際創造工学科 （機械・制御系）	男	モンゴル	国費	
	国際創造工学科 情報系	女	モンゴル	政府派遣	
	国際創造工学科 （化学・生物・環境系）	女	カンボジア	国費	

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 国際創造工学科の1学科に改組して3年目の入試となったが、過去3年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計（600点満点）の最高点、最低点及び平均点は次のとおりであり、問題の難易度と入試倍率が影響していると思われる。

	最高点	最低点	平均点	志願倍率
平成29年度	516	386	424	1.8
平成30年度	514	354	407	1.6
平成31年度	513	350	408	1.8
3年間の平均	514	363	413	1.7

\* 志願倍率には推薦選抜志願者を含む。

- ② 地区別学校説明会については、大人数収容会場や駐車場確保の課題から、平成30年度は水戸地区に変えて本校大教室で実施した結果、256人の参加者となり座席数オーバーとなった。なお、地区説明会全体では、1,466人となり前年度より188人増加した。
- ③ 入学手続説明会において、本科第1学年入学生と第4学年編入学生を対象に実施していたが、説明内容のほとんどが1年生対象であったため、平成30年度は第4学年編入学生対象の説明会については、3月6日（水）の3年生登校日に実施し、選択科目説明会にも出席できるようになった。
- ④ 専攻科入学試験の学力選抜においては、産業技術システムデザイン工学専攻の志望コースを1つ選択して受験することに改善し、コース別に試験科目を設定して実施した。

## (3) 今後の展開

- ① アドミッション・ポリシーの入学者選抜における具現化に関して、新たな評価方法の導入の検討が必要である。
- ② 国際創造工学科の1期生が受験する2022年度専攻科入試に向け、専攻科学生選抜基準について見直し改正の検討を行う。
- ③ 入試倍率の低下を防ぐため、本校ホームページでの情報発信を始め、これまで以上に入試広報活動の取組が必要である。

## 2. 教育内容等（教務委員会）

### (1) 取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

#### ①科目のナンバリングやルーブリック評価シート等

ルーブリック評価等を設定し、MCCに紐付けしたWebシラバスへの移行を本科科目で実施し、来年度は専攻科までを含め実施するように準備をした。また、昨年度作成した科目のナンバリングのルールに基づき、科目のナンバリングの適用の準備を行っている。

#### ②国立高専第2ブロック内での連携

9月7日に東京高専で実施された第2ブロックの教務主事会議において、教育課程の編成等に関して情報交換を行った。

#### ③グローバルエンジニアを育成するためのキャリア教育

採択されたイニシアティブ4.0について、キャリア教育を充実するためのWGを発足させ、実施した。その取り組みの成果として、茨城県学生ビジネスプランコンテスト（茨城県、茨城大学主催）で最優秀賞、優秀賞を受賞し、Web×IoTメイカーズチャレンジ（総務省主催）では最優秀賞、審査員特別賞を受賞した。

#### ④ICTを利用した教育

平成28年度から引き続き、入学生にはタブレットPC等の購入を義務付けた。1～3年生に実施するCBTでは購入したタブレットPCを使用することを基本とし、事前にHRを利用してリハーサルを行った。今後とも授業内外において、タブレットPC等の使用を推進していく。現在、電子化した授業資料の配付、Google Classroom等を利用した取り組みが行われている。

#### ⑤学生の国際的な活動を推進

学生の国際的な活動を推進するために、平成28年度にその活動を評価できる授業科目（「グローバル研修」、「グローバル特別研修」）を設け平成29年度から開講した。平成30年度は、「グローバル研修」2人、「グローバル特別研修」5人が単位を取得した。

#### ⑥学習到達度試験（CBT）

基礎科目である数学、物理の学習意欲向上を図るため、CBTの成績優秀者として、3年総合（数学・物理）17人、科目別では数学1年9人、2年8人、3年3人、物理2年1人、3年1人、化学1年1人、2年1人を表彰した。

#### ⑦英語能力の向上

前年度と同様に、英語による卒業研究発表および特別研究発表を実施した。4月10日にGTEC（本科1～3年）およびTOEIC（本科4，5年）試験を実施した。

#### ⑧数学サポートプログラム

本科の学力入試の数学成績を分析した結果、入学後に学力不振の恐れがある10人の学生を対象にして数学サポートプログラムを開始した。対象学生はタブレットPC上のビデオ教材によって補習を受けた。後期中間定期試験において、成績不振の学生に対して、このプログラムを講義型で約70人に対して実施した。

#### ⑨ボランティア活動の支援

ボランティア活動については「社会貢献」として単位化しており、5人の学生が「社会貢献」の単位を取得した。

#### ⑩教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育の質保証について、高専フォーラムや教務主事会議等の情報を収集し、平成31年度に向けた準備を行った。

#### ⑪原級留置率・退学率の軽減のための対策

原級留置率・退学率の軽減のための対策として、以下の事項を実施した。

- ・ 数学成績不振の1年生に対しての補習（数学サポートプログラム）。
- ・ 1年生全員を対象にした教員チューター制度
- ・ 全学生の定期試験成績・欠課時数を全教員で情報共有。
- ・ 定期試験成績の科目毎分析結果を情報共有。
- ・ 各期の成績を保護者に郵送。
- ・ 全教員による教授方法の点検

なお、仮進級対象者に対しては早期から指導できる体制に変更して実施した。

#### ⑫インターンシップへの参加推進

インターンシップの校内説明会を4月に実施し、今年度、101人が参加し、100人が単位を取得した。

#### ⑬主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科1期生の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。

- <主専攻> 機械・制御系 81人  
 電気・電子系 40人  
 情報系 41人  
 化学・生物・環境系 41人
- <副専攻> 機械・制御系 46人  
 電気・電子系 46人  
 情報系 46人  
 化学・生物・環境系 37人  
 グローバル系 28人

#### ⑭規則の立案

タイ政府奨学金留学生の受入に対応するためや実態に合った内容に修正するため、以下の規則の立案を行った。

- ・ 茨城工業高等専門学校学則の一部改正案
- ・ 茨城工業高等専門学校学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程の一部改正案
- ・ 特別学修の単位の認定及び茨城工業高等専門学校で修得すべき科目とみなす単位の認定に関する規則の一部改正案
- ・ 茨城工業高等専門学校外国人留学生規則の一部改正案
- ・ 茨城工業高等専門学校特別支援教育室規則の一部改正案

#### ⑮平成30年度教務委員会

平成30年度は以下のとおり委員会を4回、メール審議を33回開催した。

回数	開催日(期日)	議題
メール 第1回	平成30年5月8日	①休学について ②転学について
メール 第2回	平成30年5月22日	①3年「実践英語」として認める語学研修について
メール 第3回	平成30年5月28日	①転学について
メール 第4回	平成30年6月11日	①転学について
メール 第5回	平成30年6月22日	①休学について
第1回	平成30年6月28日	①M科単位振替表の修正について ②H29ニュージーランド語学研修単位認定

		<ul style="list-style-type: none"> <li>③社会貢献および知識技能審査について</li> <li>④グローバル（特別）研修単位認定について</li> <li>⑤メーリングアドレスについて</li> <li>⑥出席簿の廃止について</li> <li>⑦留学生および4年次編入学生に対する副専攻の取り扱いについて</li> <li>⑧改組課程に対するグローバル研修の導入について</li> <li>⑨タイ留学生の成績計算法について</li> <li>⑩1日体験入学について</li> <li>⑪その他</li> </ul>
メール 第6回	平成30年7月23日	①放送大学特別聴講（2学期）の履修について
メール 第7回	平成30年8月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①病欠等による欠席オーバーの取り扱いについて</li> <li>②グローバル（特別）研修事前申請について</li> </ul>
メール 第8回	平成30年8月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会貢献活動実施届（事前）について</li> <li>②茨城大学特別聴講（後学期）の履修について</li> </ul>
メール 第9回	平成30年8月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①退学について</li> <li>②休学について</li> </ul>
メール 第10回	平成30年8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長岡技術科学大学eラーニング（2学期）の履修について</li> <li>②休学について</li> <li>③退学について</li> <li>④研究生期間延長について</li> <li>⑤研究生の退学について</li> </ul>
メール 第11回	平成30年9月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①豊橋技術科学大学eラーニング（後期）の履修について</li> <li>②九州工業大学eラーニング（後期）の履修について</li> <li>③休学について</li> </ul>
メール 第12回	平成30年9月7日	①退学について
メール 第13回	平成30年9月14日	①休学について
メール 第14回	平成30年9月19日	①休学について

メール 第15回	平成30年10月12日	①休学について ②社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第16回	平成30年10月15日	①グローバル研修事前申請について
第2回	平成30年10月25日	①グローバル（特別）研修の単位認定について ②社会貢献時間数認定について ③他大学（茨城大・前学期）及び知識技能審査の単位認定について ④留学生および4年次編入学生に対する副専攻の取り扱いについて ⑤時間割編成について ⑥専攻科のシラバスについて ⑦その他
メール 第17回	平成30年11月12日	①休学について
メール 第18回	平成30年12月3日	①休学について ②実践英語の単位認定について
メール 第19回	平成30年12月10日	①転学について
メール 第20回	平成30年12月14日	①仮進級の成績締め切りについて
メール 第21回	平成31年1月11日	①社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第22回	平成31年1月29日	①知識技能審査による単位認定について ②他大学等での履修科目の単位認定について
メール 第23回	平成31年2月8日	①教務申合せの一部改正について ②病欠等による欠席オーバーの取り扱いについて
メール 第24回	平成31年2月8日	①新課程と旧課程間の単位振替について
メール 第25回	平成31年2月19日	①再試験での合理的配慮の適用について
第3回	平成31年2月20日	①グローバル（特別）研修の事前申請について ②実践英語単位認定について ③社会貢献時間数認定および単位認定について ④知識技能審査単位認定について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤インターンシップ単位認定について</li> <li>⑥規則改正について</li> <li>⑦3年次留学生の副専攻配属について</li> <li>⑧過年度の成績訂正に伴う成績順位の取り扱いについて</li> <li>⑨その他</li> </ul>
メール 第26回	平成31年2月28日	①グローバル研修事前申請について
メール 第27回	平成31年2月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①インターンシップの単位認定について</li> <li>②社会貢献活動実施届（事前）について</li> <li>③他大学等での履修科目の単位認定について</li> </ul>
メール 第28回	平成31年3月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①他大学等での履修科目の単位認定について</li> <li>②知識技能審査による単位認定について</li> <li>③グローバル研修事前申請について</li> <li>④社会貢献活動実施届（事前）について</li> </ul>
メール 第29回	平成31年3月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①転学について</li> <li>②グローバル研修事前申請について</li> </ul>
メール 第30回	平成31年3月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会貢献活動時間数認定について</li> <li>②社会貢献活動単位認定について</li> </ul>
メール 第31回	平成31年3月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研究生について</li> <li>②他大学等での履修科目の単位認定について</li> <li>③社会貢献活動時間数認定について</li> <li>④社会貢献活動単位認定について</li> </ul>
第4回	平成31年3月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>①卒業追加認定について</li> <li>②再評価試験結果について</li> <li>③インターンシップ単位認定について</li> <li>④知識・技能審査による単位認定について</li> <li>⑤社会貢献時間数認定および単位認定について</li> <li>⑥休学について</li> <li>⑦退学について</li> <li>⑧復学について</li> <li>⑨転学について</li> <li>⑩平成26年度以降入学生（新カリ）と29年度以降入学生（改組カリ）の科目振替について</li> <li>⑪平成26年度以降入学生（新カリ）の留年時の他学科専門共通科目の開講について</li> <li>⑫系配属について</li> </ul>



		⑬茨城大学、茨城キリスト教大学、茨城県立医療大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学及び常磐短期大学との間における単位互換に関する科目について ⑭平成 31 年度行事予定表について ⑮その他
メール 第 32 回	平成 31 年 3 月 26 日	①転学について
メール 第 33 回	平成 31 年 3 月 26 日	①休学について ②退学について ③グローバル研修単位認定について ④卒業追加認定について

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① グローバルエンジニアを育成するためのキャリア教育では、茨城県学生ビジネスプランコンテスト（茨城県、茨城大学主催）で最優秀賞、優秀賞を受賞し、Web×IoT メイカーズチャレンジ（総務省主催）では最優秀賞、審査員特別賞を受賞するなどの成果があった。平成 31 年度も引き続き、キャリア教育の充実のために、WG で検討する予定である。
- ③ ICT を利用した教育については、一部の授業で使用していた Office365 が昨年度、利用停止のトラブルになったが、今年度、解除されて利用できるようになった。一方、授業時間内外で Google のサービスを利用して学生に対応している事例もあった。
- ④ 原級留置率・退学率の軽減については、原級留置者は 65 人であり、退学者および積極的なものを除くとその割合は 3.0%であった。また、退学者数は 31 人であり、全体の 3.0%であった。今後とも、原級留置率・退学率の低減のための方策を検討し、実施する予定である。
- ⑤ 主専攻・副専攻配属については、希望の系が分散したことにより、ほとんどの学生が第 1 希望の系に配属となった。

## (3) 今後の展開

- ① 高専機構全体で高専学生情報統合システムの導入が進められており、来年度には各種システムが全高専に導入される予定となっている。
- ② 教務システムについても上記システムの一部として、展開される予定であるが、導入当初においては、既存のシステムとの並行運用が必要であると想定される。
- ③ 来年度の学習到達度試験は専門科目の CBT 試験も予定されており、対応を検討する必要がある。

### 3. 教育内容等（専攻科委員会）

#### (1) 取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

##### ①新カリキュラムの検討

本科で改組が行われた本科現2年生が専攻科へ入学するのに合わせ、カリキュラムの改定を行うための準備を進める必要があったが、本年度、大学との共同教育プログラムの申請があり、その可否により専攻科のカリキュラムそのものが影響を受けることから、新カリキュラムの検討を一時ペンディングとしていた。結果として大学との共同教育プログラムは不採択であったため、来年度の早い段階から検討を始め、来年度中に纏め上げる予定である。

##### ②学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化

専攻科特別実験への学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化について継続して取り組んでいる。

##### ③大学院との連携

例年同様、専攻科の進学先として位置付けられる多くの大学院や研究組織からの進学説明会等を受け入れた。これらは専攻科の学生へ直接メールで案内を行い周知した。また今年度は、地元の国際的な研究機関である J-PARC (KEK) を専攻科1年生全員で訪問した。KEK の研究者は総合研究大学院大学として大学院学生の受け入れも行っており、専攻科生にとっては進学先及び就職先として捉えることができる。実際に、本校専攻科出身で総研大に在学している学生からの総研大の紹介や、本校本科卒業生で KEK の職員として働いている方からの KEK の紹介など、専攻科生にとっては大変有意義な経験になった。

##### ④大型プリンタの活用

大型プリンタは、専攻科生の学会発表や、地域へ向けた種々のイベントの掲示物の印刷に有効に利用している。

##### ⑤特例適用専攻科に係る変更の届出

本科を新課程で卒業した平成 31 年度入学生適用の科目表の変更の届出と 7 人の指導教員の追加、1 人の変更の届出を行い、科目表の変更と指導教員全員の追加・変更が認められた。

##### ⑥特例適用による学位申請

今年度から、特例適用専攻科として、学位規則第 6 条第 1 項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行うこととなり、申請した 35 人全員が学位を取得した。

## ⑦規則の立案

科目名の変更に対応するため、以下の規則の立案を行った。

- ・ 茨城工業高等専門学校学則の一部改正案

## ⑧平成 30 年度専攻科委員会

平成 30 年度は以下のとおり委員会を 1 回、メール審議を 7 回開催した。

回数	開催日（期日）	議題
メール 第 1 回	平成 30 年 4 月 2 日	①休学願について
メール 第 2 回	平成 30 年 8 月 23 日	①休学願について
メール 第 3 回	平成 30 年 9 月 19 日	①学則の改正案について
メール 第 4 回	平成 31 年 2 月 8 日	①インターンシップの単位認定について
第 1 回	平成 31 年 2 月 12 日	①専攻科 2 年生単位修得認定 ②報告事項 ③来年度の検討事項 ④依頼事項 ⑤その他
メール 第 5 回	平成 31 年 2 月 20 日	①専攻科 2 年生（AE コース）単位修得認定
メール 第 6 回	平成 31 年 3 月 6 日	①インターンシップの単位認定について
メール 第 7 回	平成 31 年 3 月 26 日	①復学について ②休学について

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 特例適用による学位申請については、今年度が初めての対応であり、多少の混乱もあったが、申請者全員が学位を取得することができた。来年度は今年度の経験を活かして効率的に申請手続作業を進めていく。
- ② 今年度は専攻科 2 年生の単位修得認定後に学生から知識・技能審査による単位認定申請があり、当該学生について、再度単位修得認定の審議を行うこととなった。学位申請に影響する場合もあるため、学生に対して申請の期限を周知する。

### (3) 今後の展開

- ① 本科改組後の学生が専攻科に入学するのに合わせ、カリキュラムの改訂を行うため、特例適用専攻科における科目表の変更申請が必要だが、大幅な変更となる場合は、事前に大学改革支援・学位授与機構と申請手続について相談することとなる。そのため、来年度中にはカリキュラムの改訂案が完成するよう議論する必要がある。
- ② 特別研究の充実・成果発表の英語化については、今後も、引き続き取り組んでいく。
- ③ 認定専攻科及び特例適用専攻科の教育の実施状況等の審査（レビュー）が今後予定されているため、準備を進めていく必要がある。

## 4. 学生支援（学生委員会）

### (1) 取組実績

#### ① 課外活動支援

課外活動支援の取り組みについては、新入生オリエンテーション、（4月）、高専大会入賞者と校長と学生表彰者の懇談会（10月）、リーダーズミーティング（3月）を実施し、課外活動運営強化を支援した。

以下の部活において外部コーチを委嘱し、サッカー部においては外部クラブチームとの業務提携を継続した。

- ・ 外部コーチ受入部活：卓球部、弓道部、吹奏楽部、茶道部
- ・ 水戸ホーリーホックとの業務提携：サッカー部

以下今年度の体育大会、コンテスト等での実績。

#### ■ 運動部

##### 関東信越地区高等専門学校体育大会結果

- ・ 卓球競技
  - ：男子団体 優勝
  - ：男子個人シングルス 2位（中村） 3位（照沼）
  - ：男子個人ダブルス 優勝（中村・照沼） 2位（村上・鈴木）
  - ：女子団体 優勝
  - ：女子個人シングルス 優勝（森） 2位（今橋）
  - ：女子個人ダブルス 優勝（森・今橋）
- ・ テニス競技
  - ：男子団体 優勝
  - ：男子個人シングルス 優勝（遠藤） 3位（戸井田）
  - ：男子個人ダブルス 優勝（遠藤・菊池）
  - ：女子個人シングルス 2位（金子彩） 3位（金子晴）
  - ：女子個人ダブルス 優勝（金子彩・篠崎） 2位（原・桐山）
- ・ バドミントン競技
  - ：女子団体 優勝
  - ：女子個人シングルス 優勝（齋藤）
  - ：女子個人ダブルス 優勝（齋藤・廣原） 3位（佐藤・松本）
- ・ バレーボール競技：男子団体 優勝
- ・ サッカー競技：2位
- ・ ソフトテニス競技：男子ダブルス 2位（高橋・田山）
- ・ 剣道競技
  - ：男子団体 3位
- ・ 柔道競技
  - ：男子個人 90kg級 優勝（高島）
- ・ 水泳競技
  - ：男子800m自由形 3位（河内）
  - ：女子100m平泳ぎ 優勝（北）

- : 男子200mバタフライ 2位 (高橋)
- : 男子400m自由形 3位 (河内)
- : 男子200m背泳ぎ 優勝 (河内) 3位 (佐藤)
- : 男子100mバタフライ 3位 (高橋)
- : 女子100m背泳ぎ 優勝 (北)
- : 男子100m背泳ぎ 優勝 (河内) 3位 (佐藤)
- ・陸上競技 : 男子100m 2位 (打越)
- : 男子800m 3位 (水越)
- : 男子110mH 優勝 (澤畑)

#### 関東信越地区高等専門学校弓道大会

- : 男子個人 優勝 (山内)
- : 女子個人 2位 (西野) 3位 (武藤)

#### 全国高等専門学校体育大会

- ・卓球競技 : 男子団体戦 3位
- ・テニス競技 : 男子シングルス 優勝※4連覇 (遠藤)
- : 男子ダブルス 優勝 (遠藤・菊池)
- ・バドミントン競技 : 女子団体 3位
- ・水泳競技 : 男子個人200m背泳ぎ 3位 (河内)
- : 女子個人100m背泳ぎ 2位 (北)

#### 全国通信弓道大会 : 男子個人 優勝 (山内)

#### 全国高等学校総合体育大会茨城県予選会

- ・卓球競技 : 男子学校対抗 : 3位
- ・陸上競技 : 男子110mH 2位 (澤畑)

#### ■文化部

#### 全国高等専門学校将棋大会 : 団体 優勝

#### 茨城県高等学校春季将棋大会 : 個人戦A級 優勝 (山田)

#### 茨城県高校学校総合文化祭将棋大会 : 個人戦C級 優勝 (宮内)

#### 電気自動車エコラン競技大会 in SUGO (オールドクラス部門) : 2位

全国高専デザインコンペティション (AM デザイン部門) : 審査員特別賞 (佐藤)

茨城県学生ビジネスプランコンテスト 2018

最優秀賞・茨城大学学長賞・オーディエンス賞

「訪日外国人向け難しい日本語から“かんたんなにほんご”への翻訳サービス」(熊谷・大崎・武井)

優秀賞・常陽銀行賞

「情報を着る時代へ Internet of Cloths」(長谷川・斎藤)

Web×IoT メーカーズチャレンジ 2018-19in 茨城

最優秀賞

「観光地スタンプラリー」(長谷川・斎藤)

審査員特別賞

「動物化スマート植木鉢」(米出・饗庭・山田・大崎)

以下大会において主管校として大会の運営を行った。

関東信越地区高等専門学校体育大会

- ・バレーボール競技：7月7日～8日@ひたちなか市総合運動公園体育館
- ・卓球競技：7月14日～15日@ひたちなか市総合運動公園体育館

全国高等専門学校弓道大会関東信越地区予選

- ・6月30日～7月1日@茨城高専

厚生補導経費として部活動への支援を行った。

- ・テニス部・ソフトテニス部 (コート整備用具)
- ・柔道部・水泳部 (ベンチプレス)
- ・硬式野球部 (バッティングマシンベアリング)
- ・軽音部 (アンプ等)

## ②学費に関すること

奨学金、授業料免除及び就学支援金に関する情報は校内掲示板、HP 掲載、保護者への文書通知等により情報提供を行った。

奨学金一覧 (○) は受給実績あり

- ・日本学生支援機構 貸与型 (○)

- ・若築建設奨学金（○）
- ・水戸市奨学金（○）
- ・千葉県旭市育英生（○）
- ・岸川光男記念奨学基金（○）
- ・天野工業奨学金（○）
- ・オリエンタルモーター奨学財団奨学金（○）
- ・古岡奨学会奨学金（○）
- ・中川育英会奨学金（○）
- ・茨城県奨学金（○）
- ・日本学生支援機構 給付型
- ・ウシオ財団奨学金
- ・あしなが育英会奨学金
- ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生
- ・交通遺児育英会奨学金
- ・関育英奨学会
- ・川村育英会
- ・(株)フィックススターズ奨学金
- ・山新育英財団奨学金
- ・日東紡奨学金
- ・ひたちなか市奨学金
- ・日立市奨学金
- ・大洗町奨学金
- ・稲敷市奨学金

入学料免除（猶予）：3人

授業料免除前期：全額免除16人 半額免除2人 全額猶予1人

授業料免除後期：全額免除20人 半額免除2人

③学生会活動について、以下を行った。

4月 学生総会、第1回レクリエーション大会（ドッジボール）

5月 部活動調査

7月 関東信越地区高等専門学校学生交流会（長野）、学校長との懇談会、池清掃、七夕イベント

ひたちなか市社会を明るくする運動参加（7月）

8月 全国高等専門学校学生交流会（仙台）

10月 ハロウィンイベント



- 11月 第2回レクリエーション大会（ドッジボール大会）  
12月 立会演説会、クリスマスイルミネーション企画、校内バドミントン大会  
2月 校内卓球大会  
3月 関東信越地区高等専門学校学生交流会（木更津）

ボランティアとして学生会で茨城国体バレーボール競技リハーサル大会等に参加する等、積極的にボランティア活動を行った。

#### ④イベント

##### 芸術鑑賞会

日時：12月13日（木）

会場：ひたちなか市文化会館

内容：演劇「EDDIE」

目的：学生の教養、人間性を高めるため

##### 校内体育大会

日時：10月3日（水）

全校学生による校内体育大会を実施。

##### 茨香祭

日時：10月20日（土）21日（日）

第30回目の茨香祭を実施

#### ⑤学生への安全指導

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

- ・交通安全講話（1年）
- ・非行防止講演会（1年）
- ・薬物乱用防止講演会（2年）
- ・サイバー犯罪防止講演会（2年）

その他、校内・校外巡回を各教員で分担して実施した。更に、青少年相談員として青少年に対する街頭での指導、勝田東海地区中・高生徒指導連絡協議会総会、ひたちなか市学校警察連絡協議会総会及び研修会等に参加するなど、外部との連携を積極的に行った。

#### ⑥施設改修

合宿所の調理場の床を改修、水場の衛生環境を改善。

テニスコートの壁当板の破損を改修。

軽音楽同好会部室の空調故障のため新規購入し設置。

#### ⑦預り金

茨香祭実行委員と自動車部の預り金管理を開始した。

#### ⑧懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

本校学生により SNS 上に不適切な内容を掲載する事案が派生したため、対応した。またそれを受けて、再発防止のために SNS の適切な使用方法について全学生へ改めて通知をした。

#### ⑨人命救助

4月に國府田真勢が熱中症らしき症状で歩道にうずくまっていた中学生を救護した。10月には相田 丈一郎が歩道に倒れている高齢者を高校生と協力して人命救助にあたった。相田は、ひたちなか・東海広域事務組合消防本部消防長から消防協力者として表彰を受けた。

### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 一体育大会・コンテスト等での学生の活躍については、全国高専体育大会で優勝するなど好成績を収めた。特にテニス部では4C遠藤が高専大会個人シングルス4連覇を達成し、個人ダブルスでも優勝した。また本校が開催校となった全国高専将棋大会では、将棋部が見事優勝した。連合会主催の高専デザインコンペティションでは審査員特別賞を受賞した。今後も学生の安全管理に注意しながら、課外活動を通じて健康な身体と責任感や協調性等が養成されるよう取組みをサポートしたい。

② 教育の機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。新規に4つの奨学金の利用があった。

③ 学生の自主性や積極性が損なわれないよう、学生会活動を指導し、サポートした。今後も引き続き学生とのコミュニケーションを密にし、より学生会活動が充実したものになるよう指導を継続する。

④ 芸術鑑賞会では、世界チャンピオンを育てた実在したボクシングトレーナーを描いた演劇。トレーナーと教え子との絆、思いやりの心、友情、生きるという素晴らしさなど様々な大切なものを気づかせてくれる作品であった。今後もこのような素晴らしい作品の選定が重要となる。

茨香祭は節目となる第30回目の開催であった。茨香祭実行員が主導し、テーマ「Thanks」を掲げ、学生だけでなく教職員、地元企業、後援会や同窓会さらには近隣の一般住民も巻き込みながら2日間にわたり大いに盛り上がった。例年になく取組みとして、最終日には校内で花火を打ち上げ、30回目の節目に花を添えた。一方で課題としては、車での来場者が多く駐車場の確保が困難であること、実行委員の一部の学生に過度な業務負担がかかる傾向があることなどがあげられる。

⑤ 自転車の通学マナー向上や自動車事故の防止、非行防止、薬物犯罪やサイバー犯罪の防止等の講演を行った。学生は皆講演を熱心に聞き、意識改革につながった。

- ⑥ 昨年に続き、合宿所の衛生環境を改善。調理場の床を改修。留学生等も合宿所を使用するなど、衛生環境の早急な改善が必要なため、昨年に続き調理場を改修した。来年以降も環境の改善を継続する。
- ⑦ 預かり金の取扱いを開始し、適切な会計処理と円滑な運用を進めている。本年は2つの学内団体が新たに取扱いを開始した。今後参加団体が増加するように取り組んでいく必要がある。
- ⑧ 今後学生が犯罪に巻き込まれることなく、正しくネット利用ができるように学生へ指導した。また、これまで本校教員により行ってきたサイバー犯罪防止講演会を茨城県警察本部サイバー関係対策課へ依頼し指導を強化した。
- ⑨ 人命救助を行った2人へは校長より善行賞が授与された。この事例を全学生へ紹介することにより、より一層の道德心の向上をはかった。

### (3) 今後の展開

学生のスマートフォン等の利用や、通学時の自動車や自転車のマナー向上が大きな課題といえる。これらは、学生生活の乱れや事故の原因となる可能性があるため、今後当委員会にて継続して協議していく必要がある。

## 5. 寮生支援（寮務委員会）

### (1) 取組実績

寮生の支援について次の活動を行った。

#### ① 外出外泊システムの本稼動

寮生が提出する各種届出（外出届、外泊届、欠食届、行事届）について、外出外泊システムを本稼動させ、窓口業務の軽減を図った。

#### ② 新点呼システムの導入

寮生の点呼はシステムを利用して行っているが、外出外泊システムと連動したシステムを導入し、不在者の確認をスムーズに行えるようにした。

#### ③ 学寮ネットワークの契約

学内ネットワーク設備の更新に伴い、寮のネットワークは単独で契約（寮生保護者会）を締結することになった。ネットワーク契約料は年間 208 万円となり、平成 30 年 7 月から寮費（共通経費）を月額 1,500 円値上した。

#### ④ 宿直者の業務タイムテーブルの見直し

第二点呼不在者の在室確認や寮内巡視時間を見直した。また、学生寮指導員の業務を記載し、宿直者との業務分担を明確にした。

#### ⑤ 学生寮緊急時避難要項【地震の場合】の作成

地震を想定した避難訓練を実施した。その結果、当直者用の緊急時避難要項を見直し、新たに寮生用の緊急時避難要項を作成した。寮生用は「学寮生活の手引き」に掲載した。

#### ⑥ 「学寮生活の手引き」改訂版の作成

外出外泊システム導入に伴う各種届出方法の変更や、寮生用の学生寮緊急時避難要項【地震の場合】を記載した改訂版を作成した。

#### ⑦ 後期入寮生の募集

入寮生を増やすために、近隣に居住している学生でも入寮可とし、積極的に募集した。1 年生には自宅に募集案内を送付し、2～3 年生にはクラス担任経由で募集案内を配布した。

⑧ 寮務委員会

第1回 平成30年5月24日(木)

1. 平成29年度寮費決算及び平成30年度寮費予算(案)について
2. 寮費の値上について
3. 平成30年度学寮運営方針について

第2回 平成30年7月3日(火) メール審議

1. 「学寮共通経費に関する申合せ」の一部改正について

第3回 平成30年10月2日(火) メール審議

1. 「宿直者の業務タイムテーブル」の見直しについて
2. 「パソコン持ち込み許可方針」の廃止について

第4回 平成31年2月7日(木) メール審議

1. 学生寮緊急時避難要項【地震の場合】について
2. 「学寮におけるパソコンおよび校内情報ネットワークの利用規則について」の廃止について
3. 「学寮生活の手引き」改訂版について

⑨ 学寮行事

期日	内容
平成30年4月3日(火)	開寮、新入寮生オリエンテーション
平成30年4月5日(木)	新入寮生歓迎会
平成30年4月26日(木)	学寮避難訓練(火災)
平成30年4月27日(金)	簡易閉寮
平成30年5月6日(月)	開寮
平成30年5月16日(水)	暴風雨時点呼訓練
平成30年5月23日(水)	寮生総会(寮生会予算・決算)
平成30年6月17日(日)	寮生保護者懇談会
平成30年8月10日(金)	1年男子寮生部屋替え、閉寮
平成30年9月17日(月)	開寮
平成30年9月18日(火)	学寮建物周辺の美化作業
平成30年9月22日(土)	一日体験入学(学寮見学会)
平成30年9月29日(土)	寮祭
平成30年10月25日(木)	学寮避難訓練(地震)
平成30年12月26日(水)	閉寮
平成31年1月6日(日)	開寮
平成31年2月5日(火)	卒寮生追い出し会

平成 31 年 2 月 13 日 (水)	退寮日
平成 31 年 2 月 14 日 (木)	部屋替え
平成 31 年 2 月 22 日 (金)	閉寮
平成 31 年 3 月 5 日 (火)	入寮説明会

⑩ 規則等の改正等

- ・「学寮共通経費に関する申合せ」の一部改正
- ・「パソコン持ち込み許可方針」の廃止
- ・「学寮におけるパソコンおよび校内情報ネットワークの利用規則について」の廃止

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 外出外泊システムが本稼動になり、運用していく中で見えてきた問題点を精査し解決することができた。また、外出外泊システム導入に伴う各種届出方法の変更を「学寮生活の手引き」に反映することができた。
- ② 地震を想定した避難訓練を初めて実施したことにより、避難誘導灯や放送設備について再確認することができた。
- ③ 寮生を募集する際に近隣に居住している学生でも入寮できることを明記した結果、8人が新規に入寮した。

(3) 今後の展開

学寮業務の電子化や学生寮指導員（寮監）の雇用により寮生が安全で過ごしやすい学寮の環境整備を行ってきたが、更なる業務の効率化を図るために学生寮の位置付けやありかたについて改めて検討することを開始する。

## 6. 広報活動（広報委員会）

### (1) 取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

#### ① ホームページの改修及び情報発信

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。今年度は外国人・留学生の受入れに対応するため、英語版ページのリニューアル及びタイ語版ページの新規構築を行った。英語版ページのリニューアルでは、国際創造工学科の各専攻系の紹介を新たに掲載する等、内容の見直しを行った。タイ語版ページは、タイからの1年次留学希望者等への広報活動の一環として新規構築を行った。

また、本校の各種行事や学生・教職員の活動について、随時ホームページで紹介した。

#### ② 「学校要覧」の刊行

平成30年度版「学校要覧」を7月に刊行した。今年度は組織、研究活動、学生活動、在学状況、就職・進学状況等のデータを更新した。

刊行部数は800部で、主に求人企業及び地域連携機関等に配布し案内を行った。

#### ③ 「What's 茨城高専？」の刊行

「What's 茨城高専？」を、入試広報用として7月に刊行した。

刊行部数は7,500部で、学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

#### ④ 「高専だより」の刊行

「高専だより」は、本校の活動内容等を案内することを目的として学生及び保護者向けに刊行しており、8月と3月の2回刊行した。

#### ⑤ 公開講座の開催

学校広報、社会貢献の一環として、中学・高校生、一般市民を対象に次のとおり公開講座を開講した。今年度から、各講座の申込方法を本校ホームページからのWeb申込へと変更し、申込みの簡便化と受付業務の効率化を図った。

講座の名称	受講定員	受講者数
考えてみよう！数学！	25	19
電子回路を作ってみよう！	20	20
Android ゲームプログラミング	25	19
3次元CAD入門	15	8
ネット検索を活用しよう	20	6
元予備校講師が語る、ラクして学力アップする科学的勉強法講座	50	76
計	155	148

#### ⑥おもしろ科学セミナーの開催

社会貢献の一環として、小、中学生を対象とした理工学分野のセミナー「おもしろ科学セミナー」を8月17日に開催した。昨年度までは2日間の開催であったが、教員の負担軽減のため、今年度からは1日の開催とした。410人の応募者の中から、291人（小学生170人、中学生121人）が受講した。

対 象	テーマ名	受講者数
小学生	作ろう！飛ばそう！ペットボトルロケット	23
	紙コップロボット	19
	思い通りに動かそう！コンピュータ操縦カー	48
	作って楽しい！見て感動！立体万華鏡	35
	電子工作：「メロディの小箱ミニ」をつくろう	45
中学生	金属の結晶を作ろう	19
	LEDを制御しよう	19
	リアルと非リアルをつなぐ技術	28
	ARアプリケーションを作ろう！	20
	魔法の粉！？固体触媒を使って蛍光物質を合成しよう！	35

#### (2)自己評価（改善含む）及び課題

- ① 高専の海外展開という高専機構全体の動きの中で、今後は海外への情報発信も重要になってくると思われる。については、本校ホームページの英語版及びタイ語版ページを、外国人受入に向けた広報のために活用していく。また、本校教職員や学生の活動について引き続きホームページ上で積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」及び「What's 茨城高専？」については、いずれも7月に刊行することができた。来年度以降も早期に刊行を行うよう進めていく。
- ③ 公開講座については、新規講座が開設された結果、受講定員への充足率が95%となっており、前年度の71%から大幅に改善された。引き続き広報活動等を強化し充足率の



アップを図っていく。また、各講座は概ね好評であり、本年度の受講者アンケートでは約98%が「満足」した旨の回答であった。

おもしろ科学セミナーについては、昨年度の約1.2倍の申込があり、アンケートの結果も受講生の90%強が「おもしろかった」旨の回答であった。今年度から実施日を1日に短縮したが、アンケートの結果では74%の受講者がセミナー時間の長さはちょうど良かった旨の回答であったため、来年度も1日での開催を継続する。引き続き広報活動を充実させて実施していく。

### (3) 今後の展開

独立行政法人の予算が年々削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。今後も紙媒体の広報誌に加えて、ホームページやSNS等も活用しながら積極的に本校の情報を発信していく。また、公開講座やおもしろ科学セミナー等のイベントを本校の広報活動の機会ととらえ、企画内容の充実を図っていく。

## 7. 学生健康支援（学生健康センター）

### (1) 取組実績

学生の心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を送る援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① メンタルヘルスに関する学生への取り組みを実施した。
  - ア.1年生とカウンセラーによるグループカウンセリング
  - イ.留学生とカウンセラーによるグループカウンセリング
  - ウ.DV 予防教育セミナー（1年）
  - エ.カウンセリング講座（3年）
- ② 教職員が関連する研修会に参加し支援体制の充実を図った。
  - ア.発達障害への支援セミナー（学内）
  - イ.自殺予防研修会（学内）
  - ウ.心の問題と成長支援ワークショップ
  - エ.障害学習支援実務者育成研修会
  - オ.全国学生相談研修会
  - カ.全国国立高専学生支援担当教職員研修
  - キ.心肺蘇生法講座
- ③ 運動部所属学生及び寮生を対象に「普通救命講習会」（AED 使用方法）を実施した。
- ④ エピペン講習会を実施した。
- ⑤ 献血を実施した。
- ⑥ 学校環境衛生検査（学校飲料水水質検査、学校プール水水質検査、騒音検査、空気検査）を実施した。
- ⑦ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）によるアンケートを実施した。
- ⑧ 学生定期健康診断、（歯科検診含む）を実施した。
- ⑨ 「スポーツ傷害保険」加入者の募集を行った。
- ⑩ 「学生総合補償プラン保険」の募集を行った。
- ⑪ 「日本スポーツ振興センター」の給付金請求事務を行った。
- ⑫ 体育大会等の救護を行った。
- ⑬ 怪我や急病の応急処置、付き添い、健康相談、医療機関紹介・連絡を行った。
- ⑭ 学生相談室のインターカー業務を行った。
- ⑮ 「特別支援教育室」における業務補助を行った。
- ⑯ 学生の健康管理台帳を整理するための保健管理システムを検討した。
- ⑰ 学生健康センター内の定期打ち合わせ及び学生健康センタースタッフ会議を実施した
- ⑱ 9月より看護師を2人体制とした。

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① ア.新入生に学生相談室やカウンセラーを身近に感じてもらえるきっかけとなった。  
イ.カウンセラーと留学生が直接話すことで相互の距離が近くなった。  
ウ.「デートDV」についても知るきっかけとなり、対処方法を学ぶ機会となった。  
エ.食と心の関連について学ぶ事ができ興味深く傾聴し効果を得られた。
- ② 発達障害支援セミナーは今後も参加者を更に増やし継続して行いたい。その他学外での研修会、講座等に参加し今後も研鑽が必須と考える。
- ③ 救命救急で最も重要な「救命の連鎖」をスムーズに行える事こそが命を救う一歩であり、いざという時に対応できるように講習会を実施した。学生は真剣な姿勢で講習会に臨んでおり、一定の効果があつた。繰り返し学ぶ（体験する）事が大事である。
- ④ 学校薬剤師により、DVD やリーフレットによる説明とデモペンによる実技講習を行った。
- ⑤ 茨城県内は献血率が低い事が問題となっておりより多くの学生や教職員の協力を得るよう引き続き努力する。
- ⑥ 学校薬剤師により実施した。基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑦ 調査結果を基に、担任のヒアリング及びカウンセラーによる個別対応を行った。課題は、カウンセリングを行った学生に対し学校と保護者が協力し、注意深く、継続的にサポートを行っていくこと。また、個別対応のリストでなかった学生へも注意を払い教職員間の情報共有を図り見守る。発達特性を持つ学生の支援体制を「特別支援教育室」と連携をとり構築に努めた。
- ⑧ 健康管理を徹底し、有意義な学校生活を送れるように今後も受診率の向上に努める。
- ⑨ 安心して部活動に励めるように、加入を推奨する。
- ⑩ 安心して学校生活を送れるように、加入を推奨する。
- ⑪ 学校管理課内での怪我に対して請求を行った。情報共有し漏れが無い様に対応した。
- ⑫ 当日の関係者間の連携が上手く行われ速やかな対応ができた。
- ⑬ 急病や怪我の応急処置を適切に行った。関係者間の連絡、協力体制は不可欠であり、今後も情報共有を密に行う。不意に起こる応急処置や急病に今後も対応できるようスキルアップを図るとともに、メンタルにおける体調不良の対応の充実を図る。
- ⑭ メンタルの問題を抱え、体調不良の訴えにより休養を繰り返す学生に対して、丁寧に話しを聞くとともに、精神科医師やカウンセラーとの適切な関係を築き、学生が相談・助言を受ける機会を与え、問題解決に繋げた。
- ⑮ 「特別支援教育室」の体制整備について、学生相談室のカウンセラーを中心に業務補助した。
- ⑯ 松江高専の「保健管理システム」導入のため説明会へ参加したが、本校にそのまま移管するのは難しく導入を見送り、外部業者での導入を検討中。
- ⑰ 合理的でより良い支援を行うために、定期的な打ち合わせの機会を持ち、課題を出し合い取り組んだ。

⑱ 学生がいつでも安心して保健室や学生相談室を利用できるように、体制の整備・充実を図った。

### (3) 今後の展開

学生健康センターとして、学生が不安なく、充実した学生生活を送れるよう環境を整えていく。その為に、より細かい学生情報を集め、適切な情報共有を行い、システム化や組織の構築を行い対応する。

## 8. 図書館運営（学術総合情報センター）

### (1) 取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約9万4千冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年12月からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

### ① 行事实施

#### 1) 図書館ガイダンスの実施

\* 新入生対象（クラス単位で国語の授業時間を使用して説明会を実施）

日 時：平成30年4月13日（金）、19日（木）

場 所：視聴覚教室、図書館閲覧室

\* 新入留学生対象

日 時：平成30年4月26日（木）

場 所：図書館閲覧室

#### 2) ブックハンティングの実施（学生図書委員会）

期 間：平成30年4月24日（火）～7月4日（水）

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計131冊の図書を購入した。（経費：後援会費）

#### 3) 茨香祭古本バザーの実施（学生図書委員会）

期 日：平成30年10月20日（土）、21日（日）

場 所：図書館棟 スタディールーム

売上金：83,500円（古本等約800冊）を社会福祉法人日本点字図書館へ全額寄附。

#### 4) 第19回図書館カフェの開催

日 時：平成31年1月11日（金）16時30分～17時30分

講 師：国際創造工学科 化学・生物・環境系 澤井 光 助教

演 題：「ヒ素～その素顔と横顔～」

参加者：46人（うち一般市民9人）

5) 第3回ビブリオバトルの開催

応募総数：12件（募集期間：9/18～10/26、投票期間：10/29～11/29）

表彰式：平成30年12月20日（木）12時40分～12時55分（場所：視聴覚教室）

表彰	所属	氏名	書名	作者	おすすめポイント
特別大賞	3 C	後藤 拓真	敵兵を救助せよ！	恵 隆之介	戦時であろうと義の心を忘れない事の偉大さ
特別優秀賞	4 C	愛甲 悠華	空の境界	奈須きのこ	入り組んだ時系列
	2 5	佐藤 季紀	超筋トレが最強のソリューションである	テストステロン 久保 孝史	ない
優秀賞	5 M	中村 俊介	あさましきもの	太宰 治	人間らしさ
	4 E	塩原 悠生	史上最強の哲学入門	飲茶	よみやすさ
	4 C	河田 紗弥	キケン	有川 浩	全力無意味、全力無謀、全力本気。

②企画展示の実施

1) 「ブックハンティング」の展示（経費：後援会費）

展示物：学生からのリクエスト図書

2) 「教員推薦図書」の展示（経費：後援会費）

展示物：先生方より推薦された専門図書・参考書等

3) 各賞受賞作品の展示

展示物：2018年本屋大賞受賞作品、第159回・160回 芥川賞・直木賞作品

4) 「第3回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示

展示物：第3回ビブリオバトル受賞作品及び推薦図書

③図書館環境整備

1) 閲覧用テーブルと椅子の購入

飛び出せ海外コーナー前に閲覧用テーブル1台と椅子4脚を整備した。

2) 学生用プリンターの整備

パソコンコーナーのプリンター1台を更新した。

（カラーインクジェットからモノクロレーザーへ変更しコスト削減）

3) 雑誌カバーの整備

最新号の雑誌に透明カバーを整備し、貸出の可否が判別できるようにした。

4) 今年度廃棄した図書館資料

・図書館書庫：1034冊、文献室：441冊（計1475冊）

・学術総合情報センター運営委員会（メール審議）

7月2日 除籍予定図書リストの各系（部）内照会

9月26日 除籍予定図書リストの不用決定審議（10/4承認）

#### ④各種図書コーナーの配置

##### 1) 新着図書コーナー

毎月の継続図書や新着図書を配架。

##### 2) 英語コーナー

英検参考書や TOEFL、IELTS の参考書を展示。

##### 3) 新書コーナー

##### 4) シラバスコーナー

その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。

##### 5) 大学編入学対策コーナー

##### 6) 進路資格コーナー

資格取得・就活に役立つ資料を配架。

##### 7) F E 受験コーナー

F E 試験 (Fundamentals of Engineering Exam) 対策の参考書・問題集を配架

##### 8) 本校教員著書コーナー

##### 9) メンタルヘルスコーナー

##### 10) 文芸部「地雷」コーナー

文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。

##### 11) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。

##### 12) グローバル図書コーナー

グローバル関連の図書 342 冊を配架。

##### 13) 国連コーナー

国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

#### ⑤平成 30 年度整備資料

##### 1) ブックハンティング図書 (後援会より寄贈) 131 冊

学生図書委員を中心に各クラスで選書した本のため利用率が高い。

##### 2) 教員推薦図書 153 冊 (うち後援会より寄贈 95 冊)

教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。併せてシラバス掲載の図書 45 冊を整備した。

##### 3) 専門書 183 冊 (うち後援会より寄贈 106 冊)

新出題形式対応 TOEIC、シラバス掲載参考書、編入学関係等の専門書を購入した。

##### 4) 英語・タイ語図書 264 冊

タイからの留学生を対象にした英語 (128 冊)、タイ語 (136 冊) の書籍を購入した。

##### 5) 視聴覚資料 (DVD) 2 点

⑥蔵書構成等（平成30年度）

1) 図書

	和書	洋書	計
総記	3,411	252	3,663
哲学・宗教	3,885	891	4,776
歴史・地理	6,018	234	6,252
社会科学	6,040	297	6,337
自然科学	14,136	2,602	16,738
技術工学	13,846	1,716	15,562
産業	705	17	722
芸術	4,091	97	4,188
言語	5,319	3,136	8,455
文学	17,459	1,429	18,888
計	74,910	10,671	85,581

2) 電子書籍

和書	洋書	計
46	133	179

3) 配架雑誌・新聞

- ・国内雑誌：45誌
- ・新聞：9誌（茨城新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞、日刊スポーツ新聞、英字新聞（The Japan Times）、The Japan Times Alpha（ジャパントゥイムズの英語学習紙））

⑦研究支援活動

1) I L L利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付：22件
- ・外部図書館への貸借依頼：80件
- ・I L Lシステム以外の公立図書館との相互貸借：2件

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム
A I P Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
A P S Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
ScienceOnline (America Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約



3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamⅢ (科学技術振興機構)	高専コンソーシアム
MathSciNet (AMS: American Mathematical Society)	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん (朝日新聞データベース)	本校個別契約

⑧図書館開館状況及び入館者数 (平成 30 年度)

\* 正規の時間内開館： 平日の午前 8 時 30 分～午後 5 時

\* 時間外開館 夜間開館： 平日の午後 5 時～ 8 時

\* 時間外開館 土・日曜開館： 午前 10 時～午後 5 時

1) 開館状況(月別開館日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	20	19	21	22	20	19	22	21	17	17	17	20	235
時間外(夜間)	17	19	20	22	8	8	22	21	17	16	7	0	177
時間外(土曜日)	4	3	4	4	1	0	4	3	4	3	2	0	32
時間外(祝・日曜日)	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	5
合計(正規+土・日)	24	22	26	27	21	19	27	25	21	21	19	20	272

2) 入館者数(入館者カウント装置から算出)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	3,551	4,168	4,048	5,962	3,396	2,077	
時間外(夜間)	846	1,807	1,306	2,517	520	418	
時間外(土曜日)	213	428	361	520	60	0	
時間外(祝・日曜日)	0	0	186	252	0	0	
合計	4,610	6,403	5,901	9,251	3,976	2,495	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	3,712	4,161	2,264	4,582	2,014	1,482	41,417
時間外(夜間)	1,569	1,464	881	1,531	271	0	13,130
時間外(土曜日)	593	238	251	481	93	0	3,238
時間外(祝・日曜日)	277	143	0	169	0	0	1,027
合計	6,151	6,006	3,396	6,763	2,378	1,482	58,812

3) 一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	47	36	37	42	30	34	38	44	49	37	26	38	458

## ⑨会議等の開催

### 1) 第19回関東信越地区高等専門学校図書館協議会

日 時：平成30年6月22日（金）

場 所：茨城工業高等専門学校 中会議室

出席者：地区内国公立9高専図書館長等 22人

（本校）長洲 正浩（学術総合情報センター長）、山本 直之（学生課長）、  
木村 保（学生課課長補佐）、吉田 秋子（学生課図書・情報係）

協議題：1. 電子ジャーナルの利用について

2. 図書館における読書活動推進の取組について

3. 本協議会の開催の在り方について

### 2) 平成30年度高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

日 時：平成30年8月23日（木）、24日（金）

場 所：長岡技術科学大学

参加者：吉田 秋子（学生課図書・情報係）

テーマ：「図書館および図書館員による学習支援」

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ② 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費からどのように必要経費を捻出していくか、利用状況をどのように把握していくかなど、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図るための課題である。
- ③ 本校ホームページの更新に伴い、図書館のページへのアクセスが分かりにくい状況にあるため、サイトの移動も含めて改善する必要がある。
- ④ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。平成30年度は、図書館利用者の多い15時から17時の人員を2人体制に改善し、利用者へのサービス向上を図った。

## (3) 今後の展開

平成30年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、高校生の読書関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響などの現状から、読書習慣の形成に向けての取組、読書への関心を高める取組、自学自習・アクティブラーニング環境整備などについて検討していく。

## 9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

### (1) 取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

#### ①高学年のホームルーム教室へのアクセスポイントの追加

高専統一ネットワークで配備されたアクセスポイント 1 台では、1 教室 40 人が接続した場合に安定した通信が行えないことが判明した。そのため、平成 29 年度から各教室のアクセスポイントの増設を行っており、今年度は高学年のホームルーム教室（第Ⅱ教室棟、第Ⅲ教室棟及び電子情報工学科棟）に、アクセスポイントの増設を行った。

#### ②情報工学演習室の更新

平成 30 年度末でリース期間満了を迎えたため、仕様策定委員会および総務課用度係と協力し、更新を行った。

#### ③バックアップシステムの改善

各種サーバ等のバックアップシステムがサーバ等と同室にあり、災害などの非常時にデータが消失する恐れがあるため、ファイルサーバのデータバックアップを別棟のNASへ取得するように改善した。

#### ④情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、全学生及び全教員対象とした、情報セキュリティ教育を e-Learning で実施し、併せて、誓約書の提出を実施した。

また、教職員対象に、標的型メールの対応訓練を実施した。

#### ⑤WindowsOSサポート切れへの対応

2020 年 1 月にコンピューターOSの Windows 7 がサポート切れになるため、事務部のコンピューター 20 台を Windows10 に更新した。

#### ⑥電子計算機演習室の時間外開放

電子計算機演習室を、平日 17 時～20 時まで学生が利用することを目的として、時間外開放を実施し、利用者は以下のとおりとなった。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
194	246	224	311	26	62	237	81	120	193	81	1775

#### ⑦総務課総務係との業務分担見直し

情報センターと総務課総務係で定期的に打ち合わせを行い、業務分担の見直しを行った。サイボウズ、教職員のメール（メーリングリストを含む）、情報セキュリティインシデントの通報窓口の移管を行い、ユーザ管理等については総務課総務係へ移管した。

#### ⑧平成 30 年度関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会の開催

関東信越地区の国公立高等専門学校を参加校とする標記委員会について、本校を当番校として開催し、各高専から提出された協議題をもとに意見交換等を行った。

日時：平成 30 年 11 月 30 日（金）

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス

議題：1. LMS の取り組みについて

2. IT 資産管理の業務担当及び運用体制について

3. 情報セキュリティ人材の確保と体制について

4. 今後の情報処理教育研究委員会の運用について

### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 情報工学演習室の更新を実施したが、Unix 環境であるため、他の演習室との管理方法は一元化することはできなかった。ICT 教育で活用してもらえるように、他の演習室を含めて保守・管理していく。
- ② ファイルサーバのバックアップを別棟に移したことで、災害時への対策が強化された。他のサーバ等のバックアップについても、継続して対策を図っていく。
- ③ 情報セキュリティ教育及び訓練は、情報セキュリティの意識向上を図る上で有効なため、今後も継続して実施していく。
- ④ Windows OS サポートの切れに伴う OS の更新については、今年度と来年度の 2 年計画で実施することとしており、今年度は計画どおり実施することが出来た。来年度も計画どおり実施し、事務部で利用している全てのコンピューターの OS を更新する。
- ⑤ 電子計算機演習室の時間外開放の利用者数は、学生への BYOD を進めているため、前年度から利用者が減少しているが、授業レポート等の作成に利用する学生が多いため、来年度も継続して実施していく。
- ⑥ 総務課総務係との定期的な打ち合わせにより、業務分担の見直しを実施した。情報系の専門知識を要しないユーザ管理等を総務課総務係へ移管することにより、技術的判断が必要な業務に特化して対応することができるようになった。また、情報共有をすることで、互いに関わる業務について、共通認識を持つことができるようになった。引き続き、業務分担の見直しを実施していくが、一方に業務が偏らないように留意する。

### (3) 今後の展開

IT 資産管理の運用を総務課総務係、用度係と見直しを実施する。用度係が実施する資産管理と IT 資産管理を同時に実施できるように検討と手順の整備を進める。

電話交換機の老朽化に伴い、IP 電話への切り替えを検討している。総務課施設管理係と連携し、既存ネットワークを活かした IP 電話を整備する。

## 10. 国際化推進（グローバル教育センター）

### (1) 取組実績

国際化推進については、本校のグローバル化の推進、外国人留学生・海外留学および海外研修の支援、外国の大学等との学术交流の促進、地域の国際化への寄与を目的として、グローバル教育センター会議において立案し、各所掌において着実に実行に移した。

本校は、平成 26 年度にグローバル高専モデル校に指定され、「教育活動のグローバル化」「キャンパスのグローバル化」そして「連携によるグローバル化」を 3 つの柱としたグローバル高専事業を展開している。今年度は、英語で授業を行うための FD 研修、筑波大学連携事業、学生向け英語 e-learning、留学生受入、海外学生派遣・受入、及びトビタテ留学 JAPAN への応募などの取り組みを行った。（各内容は、以下の該当事項のとおり。）

#### ① JSTS / ISTS 2017 への学生派遣

ISTS は、国際的な場でのコミュニケーション能力及び多様な集団で協働する能力の向上、国際感覚の涵養を目的としたイベントである。今年度においては 10 月 7 日から 13 日に開催され、高専機構とタイ王国・キングモンクット工科大学ラカバン校とが主催した（高専機構側の担当校は熊本高専）。本校からは 2 人の学生を校長推薦として派遣した。参加学生は、多言語・多国籍のチームの中で、タイ国内の企業から提供される課題について実現可能性等を考慮しながら解決策を探るセミナーに挑み、グローバルな環境で協働する能力を培った。

#### ② 英語で授業を行うための FD 研修

3 月 1 日に英語で授業を行うための FD 研修を実施し、平成 29 年度以降に採用された 9 人の教員が受講した。本研修は英語による授業実施スキルの向上を目的としたもので、株式会社アルクの吉中昌國氏を講師に招き、英語で授業を行う際の授業設計方法や教授法を体系立てて学ぶ機会となった。

#### ③ 筑波大学連携事業

##### グローバル工学基礎（PBL 演習）

平成 29 年度に締結した「国立大学法人筑波大学数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科との包括的連携に関する協定」に基づき、8 月 27 日から 31 日に開講された集中講義「グローバル工学基礎（PBL 演習）」に、同システム情報工学研究科から 5 人の留学生ティーチングアシスタント（TA）の派遣を受けた。授業は、留学生 TA のサポートを受けながら、ディスカッションおよびその成果をまとめたポスター発表等を英語で行い、本校学生の英語での発信力強化に寄与する充実した内容となった。

### 専攻科生インターンシップ

包括的連携協定に基づき調整した結果、以下のとおり5人の専攻科生のインターンシップ受入が実現した。

所属コース	受入研究室	実習期間
電気電子工学コース	知能機能システム専攻 人工知能研究室	9月3日(月)～9月14日(金)
電気電子工学コース	知能機能システム専攻 医用生体工学研究室	8月27日(月)～9月7日(金)
電気電子工学コース	知能機能システム専攻 医用生体工学研究室	8月27日(月)～9月7日(金)
電気電子工学コース	知能機能システム専攻 音響システム研究室	9月3日(月)～9月7日(金) 3月18日(月)～3月29日(金)
情報工学コース	知能機能システム専攻 画像情報研究室	8月27日(月)～9月14日(金)

#### ④学生向け英語 e-learning の実施

本科2年生及び専攻科1年生の合計223人を対象に、オンライン英会話レッスンの機会を提供した。具体的には、本科「英語Ⅱ」及び専攻科「現代英語」の春休み課題として、後期授業終了後の2月16日から3月15日の1カ月間、1回25分間のレッスンを4回受講することとした。レッスン内容については、フリーカンバセーションだけでなく、オンライン上にストックされている多種多様な教材を用いる形式も選択可能とした。

総受講レッスン数は567回(受講率64%)であった。春休み期間であったことに加え、そもそも学校としても初めての取り組みであったこと、英会話のマンツーマンレッスンの受講経験がある学生が皆無であったこと、情報通信端末の扱いに不慣れた学生や通信トラブルに見舞われる学生も少なくなかったであろうことを考慮に入れると、妥当な数字であったと考えられる。

#### ⑤留学生(正課生)の受入

本科3年生に男子3人(マレーシア、モンゴル)、本科1年生に男子1人、女子2人(タイ)の計6人の留学生を受け入れた。本科1年生を受け入れるのは初の試みであった。

#### ⑥タイ留学生受入

高専機構におけるタイ政府派遣留学生受入事業としてチュラポーン王女サイエンスハイスクール(PCSHs)から第1期留学生を本校の第1学年に受け入れたほか、第2期生を対象とした入学試験及びサマープログラムを本校において8月5日から10日に実施し、24人

の短期留学生を受け入れた。

機構本部学務課と連携して、学則、成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程、教務申合せ等の規則改正を行い、留学生の教育体制を整備した。

#### ⑦本校留学生の活動支援

6月24日には県西方面へ留学生研修旅行（自然博物館見学、はた織り体験）、2月2日には横浜方面への留学生卒業研修旅行（水族館見学）を実施した。また日本語特別授業では、日本のお正月について学ぶ文化体験（餅つき）を実施した。

また、例年、留学生の健康管理のため成人病検診（血液検査）やインフルエンザ予防接種を実施しているが、全国で麻疹が流行したことに伴い麻疹抗体検査を新たに実施した。抗体検査の結果、抗体値の低い留学生に対しては予防接種を促した。

#### ⑧語学研修

英語圏での海外研修を通じて国際感覚を身につけ英会話の実践的能力を高めることを目的とし、本科生を対象に語学研修を実施した。今年度はカナダ（8月25日～9月9日）に15人、オーストラリア（8月25日～9月9日）に14人、フィリピン（8月26日～9月9日）に1人を派遣した。

#### ⑨朝鮮理工大学の短期留学生受入

韓国・朝鮮理工大学との間で平成22年度に締結した学術交流協定に基づく受入プログラムを実施した。今年度は従来からのプログラム内容を刷新し、1月15日から2月11日に、習熟度別の日本語語学研修を柱として11人の短期留学生を受け入れた。受入学生らは本校学生寮に滞在し、語学研修のほかにも、授業や交流会等に参加した。学生寮では本校学生との自発的な交流も生まれ、双方の学生にとって日韓の相互理解を深める大変貴重な機会となった。

#### ⑩朝鮮理工大学インターンシップ派遣

上記同様に学術交流協定をもとに継続している派遣プログラムの一環で、参加学生らは寄宿舍での共同生活のもと、授業や現地企業見学を通じて国際感覚を培った。今年度は9月2日から15日に8人の専攻科生を派遣した。これらの学生には活動実績によりインターンシップの単位を認定した。

#### ⑪台湾聯合大学学生派遣

8月13日から9月7日に宇部高専が主催校となって実施された台湾聯合大学への学生派遣プログラムへ、本校からは本科生1人を派遣した。中国語研修及び専門分野の研究室に配属され実習を行った。



⑫台湾聯合大学学生受入

7月2日から8月2日に、高等専門学校機構と台湾聯合大学との学術交流協定に基づき、台湾の技術教育及び文化事情に触れ、科学的、文化的理解を深め、グローバルな視野を養うことを目的とした受入プログラムを実施し、1人の短期留学生を受入れた。受入期間中は物質工学科に所属し、ミニ卒研を実施した。

⑬インドネシア・ガジャマダ大学学生派遣

平成28年度に本校が運営担当校の一つとしてインドネシア・ガジャマダ大学 Vocational College とともに実施した JSTS/ISTS2016 の成功を受け、3月1日から14日に両校の継続的な交流を促進するプログラムが実施され、4人の学生を派遣した。

派遣期間中、参加学生はそれぞれの専門に基づく研究室に所属し、技術英語や専門分野の講義および実習に参加した。現地学生とも意見交換を行いながら相互理解を深めた。短期間で修了可能なミニプロジェクトにも取り組み、最終日のプレゼンテーション内で成果を報告した。さらに、インドネシアの文化、現地における技術やその社会的背景の現状、日本との共通点と相違点、技術移転の重要性と問題点などの理解を目的とした文化体験および現地の企業訪問も行い、具体的な事例を学んだ。

⑭インドネシア・ガジャマダ大学学生受入

10月15日から24日に、インドネシア・ガジャマダ大学の学生が高専生の支援を受けながら専門分野に関する PBL (Project Based Learning) を行う短期プロジェクトを実施し、2人の短期留学生を受入れた。本計画の趣旨は、高専の実践的教育を体験するだけでなく、双方の学生が相手の立場を尊重しながら成果を上げる重要性を学ぶことであった。さらに近隣の研究機関を訪問し、次世代エネルギーや大強度陽子加速器等の最先端研究設備を見学した。

⑮フランス・ルーアン応用科学大学学生派遣

3月11日から22日に、フランス・ルーアン応用科学大学と平成元年に締結した学術交流協定をもとに平成2年度から継続的に実施している派遣プログラムを実施し、専攻科1年の3人の学生を派遣した。専門分野の講義やフランス語・英語の授業への参加、自身の研究内容紹介などを通じ、参加学生の語学力やプレゼンテーション能力の向上に資する有意義な機会となった。

⑯フランス・ルーアン応用科学大学短期留学生受入

前述の同大学との学術交流協定に基づき、科学的・文化的な相互交流を目的として今年度も6月18日から8月24日に3人のインターンシップ学生を受入れた。受入学生らは専門分野に基づき、本校の研究室にて実践的な研究を行った。

⑰世界展開力強化事業（メキシコ）学生受入

10月1日に、長岡技術科学大学を中心とした世界展開力強化事業（中南米）への参加に端を発したメキシコ・グアナファト大学との学術交流協定に基づき、グアナファト大学高専コースとの教職員間及び学生間の交流を図るプログラムを実施し、8人の学生及び1人の教職員を受け入れた。受入学生らは実験・実習などを体験したり、交流会においては日本人学生との学生間交流を行った。

⑱世界展開力強化事業（メキシコ）学生派遣

上記世界展開力強化事業（中南米）の一環として、毎年グアナファト大学附属高専へ学生及び教員を派遣している。今年度は3月9日から19日に本科生2人と専攻科生1人、引率教員1人が参加した。鶴岡高専、小山高専と合同で訪問した事により、高専間での学生・教員交流にも繋がり充実した滞在となった。

⑲バングラデシュ・ジョソール科学技術大学学生受入

10月15日から24日に、食の安全のための技術開発・普及・管理の研修を、茨城高専を起点としてジョソール科学技術大学からの短期留学生5人に提供した。高専においては化学や生命科学に関する分析技術を学び、近隣研究機関で先端的な研究開発の現状を視察した。また地元企業の見学や食品工学に関するフィールド調査を行った。

⑳トビタテ留学 JAPANへの応募

官民協働の海外留学支援事業である本プログラムへの応募について、昨年に引き続き学内説明会を開催するなどして、積極的に応募を支援した。

実績は、大学生コース（第9期）に1人合格、（第10期）にも1人合格した。高校生コースは、（4期）に5人が応募し、2人が書類審査を通過したが、面接にて不合格となり、（5期）には3人が応募し、2人が書類審査を通過し、面接審査の結果待ちである。

㉑ひたちなか市国際交流協会との連携

喜多英治校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務め、各種行事等の実施を通じて地域と本校との国際分野での連携を深めた。

7月8日にひたちなか市国際交流協会が主催して実施された「第7回国際交流文化祭」では本校が後援し、ゴーシュ シュワパンクメル特命准教授（一般教養部）が司会を務めた。

「茨城高専アワー」と題した企画では、喜多校長による茨城高専の紹介があり、続いて本校の留学生による日本語スピーチの披露や出身国の紹介があった。

10月20日から21日に本校で実施された茨香祭では、ひたちなか市国際交流協会のブースを受け入れた。

12月15日にひたちなか市国際交流協会主催で実施されたイヤーエンドポットラックパーティーでは本校の食堂を実施場所として提供し、協会会員およびその関係者等、本校留学生及びホストファミリーとチューター等が交流を図る機会となった。

その他例年同様、ひたちなか市国際交流ボランティアバンクを通じて本校留学生のホストファミリーを委嘱した。留学生らが日本の家庭生活を体験し、異文化理解を深める機会となった。

#### ⑫第2ブロックグローバル化推進会議

11月27日に「平成30年度第2ブロックグローバル化推進会議」が群馬高専にて開催された。本校を含め第2ブロック内の9高専からグローバル化担当の教職員計12人が集まり、各高専で予定している学生の海外派遣計画の情報共有を行い、他高専との学生派遣の共同実施についての道筋を探った。

#### ⑬協定の締結

10月16日にジョソール大学（バングラデシュ）との覚書を取り交わした。同大学とは今年度採択されたさくらサイエンスプランを契機に交流を開始しており、今後の学生交流が期待される。

また3月19日には、ルーアン応用科学大学（フランス）との学術交流協定の再締結にかかる調印式がフランス現地で執り行われた。同大学とは30年に及ぶ学生交流が継続されており、今後は同大学からの学生受入など、より一層深まった学生交流が計画されている。

#### ⑭海外協定校開拓及び視察

今年度はメキシコ・カナダ・シンガポール・マレーシアを各担当教員が訪問し、主に今後の学生交流に向けた協定（覚書）締結に向けての交渉を開始した。

また、既に協定を締結済みである国立聯合大学及び国立中興大学（台湾）にも担当教員が訪問し、次年度以降の交流計画について打合せを行った。

#### ⑮グローバル教育センターニュースレターの発行

中学生やその保護者・地域の方に向けて本校グローバル教育センターの各種取り組み実績を発信することを目的として、12月および3月にグローバル教育センターニュースレターを発行し、本校ホームページ上で公開した。

## (2) 自己評価（改善含む）および課題

### ① JSTS / ISTS 2017 への学生派遣

ISTS/JSTS については、今年度主催の熊本高専と第2ブロック拠点校の福島高専の取り纏めのもと、本校においては派遣学生との橋渡しと精算手続きを行った。旅費の精算のために航空チケットの半券を主催校へ提出する必要があったが、参加学生2人とも片路しか所持していなかった。今後は提出物の徹底を呼びかける。

### ② 英語で授業を行うためのFD研修

本研修では、教員が英語で効果的に授業を行うために必要な要素について具体例を交えて解説がなされた。受講した教員のアンケートにも実際の授業に活用できる情報が多く参考になった等の感想が寄せられ、研修の有用性を確認できた。本年度までは高専機構本部からのグローバル高専事業予算を活用して教員向け研修を実施してきたが、次年度以降予算が縮減する中でどのように予算立てをして教員研修の機会を確保していくかが課題となる。

### ③ 学生向け英語 e-learning の実施

受講を終えた学生からは、「いかに自分が英語を話せないかを認識することができた」「英語を勉強する必要性を痛感した」といった声が寄せられた。受講後に自費でレッスンを継続する学生も出るなど、レッスン機会の提供は英語学習の動機付けとして有効であったものと思われる。

一方で、春休み期間ということもあり、受講率の向上につながる指導が必ずしも十分にできなかった点に課題が残った。次年度以降再び実施の機会が得られた場合には、実施期間や対象学年等について、今回の結果を踏まえつつ再検討する必要がある。

### ④ 留学生（正課生）の受入

留学生（正課生）の受入れ時には、住民登録や国民健康保険加入手続き、口座開設、携帯電話購入など各種手続きの支援が必要となってくるが、本科1年生の場合は、年齢が低いことと日本語能力が不十分であることから受け入れ時には更にきめ細やかな支援が必要である。

### ⑤ タイ留学生受入

第1期生の受入において、留学生の日本語能力が当初の想定よりも低く、放課後や夏休み等に補講を実施することや、定期試験において、試験問題に英語を併記する等の対応が必要となった。今後、受入プログラムが進む第3期生以降について、より日本語能力が身についた状態で来日できるよう機構本部を通じてタイ政府へ要望する。

サマープログラムの実施については、本校における実施は2回目であり、滞りなく実施することができた。

### ⑥ 本校留学生の活動支援

留学生の研修旅行や日本語特別授業を通じ、本校留学生らに日本文化体験の機会を提供することができた。

また、留学生の麻疹予防接種については、出身国によって制度や健康管理に対する意識

に温度差があるため、必要性について理解してもらうことが困難であるが、学生寮で健康に集団生活を送るためにも引き続き推奨していく。

#### ⑦語学研修

今年初の試みとなるカナダ及びフィリピンへの派遣を行った。派遣学生の報告からも満足度が高かった事が伺えた。オーストラリア研修においては旅行代理店の帰国便の手配ミスにより学生が予定通りに帰国できないトラブルが起こったが、引率教員の対応及び現存の危機管理体制により全員無事に研修を終えた。いずれの研修においても、研修参加学生の安定的な確保ならびに2週間に及ぶ研修引率に対応可能な教員の確保の課題が浮上していることから、今後は派遣先の一元化、及び他高専との合同派遣も視野に入れていく。

#### ⑧朝鮮理工大学の短期留学生受入

昨年度に引き続き日本語研修を実施した。日本語の習得レベルによって2つのグループに分け、それぞれのレベルに合うように授業内容を分けて指導を行った。約4週間の研修ののち、短期留学生らの日本語能力は到着時と比較し大きく向上した。加えて日本語への自信がついたことで、活発に本校の学生達と交流をすることができた。

昨年度は講師数が少ない事に課題を残したが、今年度は講師を3人に増やし各レベルについて十分な対応時間を確保した。

#### ⑨朝鮮理工大学インターンシップ派遣

例年続いている人気の海外研修であり、例年一定数の参加希望者がいる。内容については派遣先で既にマニュアル化されているが、学生にとって魅力的なプログラムであり続けるためにも、学生のニーズを踏まえつつ、双方の担当者間で定期的に内容について見直し作業を行っていく。

#### ⑩台湾聯合大学学生派遣

複数校との合同派遣であったが、夏季休業開始の時期が高専間で異なる事や、利用する空港が他高専で別であるため、引率教員との日程調整が難しかった。結果、帰国便のみ本校から引率教員を派遣した。早めに他高専の往復便の情報を入手し、無理のないチケット手配が必要である。

#### ⑪台湾聯合大学学生受入

予め派遣学生が決まっていたため、本校滞在中にも受け入れ学生と派遣学生の間で交流があった。そのため比較的スムーズに進められた。今回は受け入れの準備時間があまりなく一人の受け入れであったが、今後はもう少し受け入れ人数を増やすことも考えられる。

#### ⑫インドネシア・ガジャマダ大学学生派遣

参加学生の1人が渡航直前にインフルエンザに罹り、一人だけ渡航期間を変更する事態となったが、事前に担当の教職員と学生間でSNSグループを作成しており、現地との情報共有もスムーズに行えた。事前説明会等において渡航前には健康に留意するよう周知が必要である。

引率教員については、2週間の派遣期間を通して引率可能な教員がおらず、往復で別の

教員が対応した。航空便の遅れが頻発する地域である事に加え、危機管理上、引率が不可欠であると判断したため、次年度から協定校からの受入(⑬)と連携し、PBLを中心とした双方向派遣型プロジェクトに進化させていく予定である。

⑬インドネシア・ガジャマダ大学学生受入

今年度はさくらサイエンスプラン事業の採択を受けたため、派遣元の学生負担が殆ど生じず実施する事が可能となった。今後も学生受入れを継続するにあたって、両国の経済状況の違いにおける、留学生の負担軽減のため、資金確保の方法を検討していく必要がある。

⑭フランス・ルーアン応用科学大学学生派遣

派遣対象が専攻科生である事もあり、引率教員を派遣しない研修であるが、近年デモが多く発生している地域であるために、視察も兼ねて引率教員が同行した。大学周辺やその他の生活区域の安全を確認した。

⑮フランス・ルーアン応用科学大学インターンシップ学生受入

ソフトウェア開発の実務研修及びTAの活動を行い、参加学生には好評を博した。

本校の受入期間としては3ヶ月間と長期に分類され、本校の学生にとっても国際交流の良い機会となっている。

⑯世界展開力強化事業(メキシコ)学生受入

来校予定日に台風の直撃を受けたため、多くの鉄道路線が運休、あるいは遅延したため、本校への到着時間が2時間程度遅くなった。今年度は2時間遅れであるが概ね予定通り受入が実施できたが、不測の事態へ対応するための緊急時の連絡手段の確保等を今後の課題とする。

⑰世界展開力強化事業(メキシコ)学生派遣

渡航中に研修学生の間でインフルエンザ感染が広がり、研修の一部を欠席する学生が出た。参加学生にはワクチンの事前接種を促す事と、体調不良者の帰国判断についてのマニュアル整備や、学生間、教員間での情報共有のためのSNSアプリの使用を検討する。

⑱バングラデシュ・ジョソール科学技術大学学生受入

今年度はさくらサイエンスプラン事業の採択を受けたため、派遣元の学生負担が殆ど生じず実施する事が可能となった。今後も学生受入れを継続するにあたって、両国の経済状況の違いにおける、留学生の負担軽減のため、資金確保の方法を検討していく必要がある。

⑲トビタテ留学JAPANへの応募

大学生コースでの合格者2人、高校生コースでは書類審査通過が4人、うち結果待ち2人という成果となった。これは、本プログラムについての学内説明会の開催によるプログラム認知度向上や、教員の指導管理体制の強化が結果に繋がったと思われる。今後は派遣学生の増加だけでなく、派遣された学生の留学生活充実のため、安全管理にも注力していくことが課題となる。

#### ⑩ひたちなか市国際交流協会との連携

ひたちなか市国際交流協会との連携により、本校の国際分野での取り組みを地域に紹介し、また、留学生等が地域の方々と交流する機会を設けることができた。次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

#### ⑪第2ブロックグローバル化推進会議

第2ブロック内の各高専における学生派遣計画の情報共有だけでなく、学生派遣に関する悩みや懸念について互いに情報の蓄積を図った。特に昨今の海外情勢と照らし合わせると、海外への学生派遣の期間中、有事が発生した場合の対応には各高専がかなり苦慮しており、第2ブロックとして、機構全体としてどうしていけばよいかという方向に議論は発展した。

#### ⑫協定の締結

締結に至るまで予想以上に時間が掛かった協定があった。協定という文書の性質上、細部の確認作業は不可欠であるが、徒に間延びする事態は避けなければならない。次年度も数件の協定を締結予定であるため、あらかじめ詳細な計画を立て、担当教員と共にスケジュール管理を行う予定である。

#### ⑬海外協定校開拓及び視察

海外機関と協定を取り交わす目的のひとつは、学生相互派遣の継続的实施による交流プログラムの実現である。学生相互派遣を維持するために、財源の確保は必要不可欠である。そのため、双方があらかじめ財源確保に向けた準備を進めておくことで、財源獲得の可能性が高まり、ひいては交流プログラムを理想的な形で継続実施することができる。

#### ⑭グローバル教育センターニュースレターの発行

本校の特色であるグローバル教育に関する取り組みを学外に発信する機会となった。次年度以降も年4回の発行を目標に、積極的に情報発信をしていく。

### (3)今後の展開

本校のグローバル化をさらに推し進めるため、学生派遣・受入、協定校開拓・交流プログラムの開発等の事業に継続して取り組んでいく。

学生派遣・受入においては、平成31年度以降からの新たな交流先として、バンガラデシュ・ジョソール科学技術大学が加わった。引き続き、有意義なプログラムの提供に向けた検討と、新規の海外教育機関との連携に向けて取り組んでいく。

また、学生派遣における懸案である、参加学生の危機管理については、現状の危機管理体制に加えて、現地での体調不良者の帰国判断についてのマニュアルの整備や学生・引率教員間での情報共有のためのSNSアプリの活用についても検討を進めていく。加えて課題となっている引率教員の確保についても、海外語学研修での派遣先の一元化や近隣高専との合同派遣についても視野に入れて検討していく。

さらに、学生受入においては、両国の経済状況の違いによる留学生の負担軽減のため、さ

くらサイエンスプランを引き続き活用するなど、資金確保の方法を検討していきたい。

次年度以降は、独立行政法人の予算が縮減していく中で、どのように財源を確保して本校の国際化を推進していくかが課題となってくる。このことについては、トビタテ留学 JAPAN、さくらサイエンスプラン、また、高専機構のグローバルエンジニア育成事業等の競争資金への応募を行っていくと共に、更に踏み込んだ議論を進めていく。



## 1 1. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）

### (1) 取組実績

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、男女共同参画の意識啓発などを目的とし、男女共同参画推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

#### ① 「女性教員紹介リーフレット」の作成

本校の女性教職員を写真及びメッセージにて紹介するリーフレットを作成した。裏面は、「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」の縮小版を印刷した。

発行部数は1,000部で、主に中学生を対象に、中学校訪問及び一日体験入学にて配布した。

#### ② 「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」の作成

本校では、女性のさらなる社会進出を応援すべく、女性エンジニアの育成・輩出に努めている。技術者・科学者をめざす女性たちの夢を後押しする教育機関として、高専の存在をより広く知っていただくことを目的とし、本ポスターを作成した。

発行部数は250部で、主に中学校訪問時に配布、そのほかひたちなか市庁舎、図書館及び商工会へ郵送し、掲示を依頼した。

#### ③ 女子中学生向けパンフレット「Girls × Technology」の配布

平成29年度に作成した女子中学生向けパンフレット600部を、主に中学校訪問時及び一日体験入学の女子カフェにて配布した。

#### ④ 盗聴器等調査の実施

男女共同参画推進センター運営委員会委員で、校内女子トイレ及び女子更衣室の盗聴器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

#### ⑤ 第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBTやジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日：平成30年6月20日（水）
- ・ 対象者：第2学年学生
- ・ 講師：Freshfields Bruckhaus Deringer 法律事務所弁護士 田中太郎氏

#### ⑥ 女性関連設備整備の実施

女性関連設備について、下記のとおり整備を行った。

- ・ 本校全ての洋式女子トイレに擬音装置を設置。
- ・ 第1教室棟北側階段踊り場のガラス窓に、目隠し用フィルムを貼付。

### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 「茨城高専ポスター『わたしたち、高専生です』」は、本校の存在と男女共同参画推進の取り組みを、一般市民に広く認知してもらうことを目的としている。ひたちなか市庁舎等に配

布したことにより、ある程度本校の認知向上に繋がったと思われる。「女子中学生向けパンフレット Girls × Technology」「女性教員紹介リーフレット」については、女子中学生に好評であったため、次年度も引き続き配布を行う。

- ② 盗聴器等調査の実施は、女性教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的として行っており、次年度も引き続き、調査を行う。
- ③ 男女共同参画推進センター主催の講演会について、学生の意識向上がみられた。次年度も引き続き開催を開催する。
- ④ 女性関連設備整備の実施について、男女共同参画推進センター運営委員会にて整備が必要な設備の情報を収集し、施設管理係へ相談した上で整備を実施した。次年度も引き続き、男女問わず、施設整備の調査を行い、校内環境向上を図る。

### (3)今後の展開

- ① ジェンダー及びLGBTに関しては重要な課題として捉えており、講演会等を実施して学生及び教職員の見識の向上を図っているが、今後は社会の動向を注視しながら、より一層の見識の向上及び施設の整備を図っていく。

## 1 2. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）

### (1) 取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携・評価）並びに地域共同テクノセンターにおいて立案し、次の活動を行った。

#### 【副校長（地域連携・評価）】

##### ①茨城工業高等専門学校における研究活動に関する目的、基本方針の策定について

（目的、基本方針）

高等専門学校では、教育と研究は表裏一体の関係にあり、教育は研究活動により培われた専門知識の深い理解を基盤に行われるべきものである。また、研究活動は、単に教育・学術的な目的で教員、学生の資質を向上させればよいというものではなく、その成果は、地域産業界だけでなく最終的には我が国の社会全体に還元されて初めて、高等教育機関の使命が達成されるものとなる。さらに、産業界との連携の中で、共同研究、受託研究等を進めながら外部資金を本校に導入し、本校の教育研究基盤経費の安定的な確保を図ることも研究活動に課せられた重要な役割である。

そこで、これらの観点から、本校の研究活動の目的を以下の通りとする。

茨城工業高等専門学校における研究活動は、教育の充実・高度化、社会貢献、および自己研鑽に寄与することを目的とする。

さらに、上記目的を達成するため、下記の方針により研究活動を推進する。

1. 学協会での定期的な発表あるいは学協会誌への論文の投稿に結び付く研究内容及び研究活動の推進
2. 各教員の研究成果の地域社会・産業界への発信
3. 研究成果の教育活動への還元
4. 地域産業界との連携と技術相談の推進
5. 共同研究、受託研究等による社会貢献と外部資金の導入

##### ②茨城工業高等専門学校における地域貢献活動等に関する目的、基本方針の策定について

（目的、基本方針）

高等専門学校は、大学とともに、その地域社会の学術情報の源泉であり、地域に開かれた空間を目指すべきである。高等専門学校が具备している知的資源は、公開講座等の教育サービスを通して地域住民に還元するだけでなく、各種施設はできる限り市民に開放することが望ましい。さらに高等専門学校は、地域の行事・催物への積極的な支援活動や科学技術創造立国である我が国の次世代を育成するための地域小中学生への理工系分野の啓発活

動を通して地域に貢献し、地域と共生した高等教育機関を目指す必要がある。

そこで、これらの観点から、本校における地域貢献活動の目的を以下のとおりとする。

茨城工業高等専門学校における地域貢献活動は、本校の人材、設備、および知的資源の活用により、地域社会に貢献することを目的とする。

さらに、上記目的を達成するため、下記の方針により地域貢献活動を推進する。

1. 地元の職業人や一般市民を対象とした定常的な公開講座を通じた地域社会へ貢献
2. 学校施設の市民開放を通じた地域社会への貢献
3. 行事・催物の支援を通じた地域社会への貢献
4. 地域自治体との連携による地域社会への貢献
5. 地域小中学生への理工系分野の啓発活動を通じた地域社会への貢献
6. 地域産業界との連携による地域社会への貢献

### ③COCプラス事業関係

#### 1) キャリアデザイン講座の実施

地元企業の技術者による、本科1年生を対象とした「キャリアデザイン・スタートアップ講座」を7月25日に、本科3年生を対象とした「キャリアデザイン・基礎講座」を11月14日に実施した。また、本科4年生、専攻科1年生を対象に、11月22日～12月20日にかけて計3回の「キャリアデザイン実践講座」を実施し、59人が受講した。

#### 2) ジョブセミナー2018の開催

12月5日に茨城高専の第1体育館において「ジョブセミナー2018」を開催し、166人の学生、26社の企業の参加があった。9割弱の学生から地元企業に魅力を感じたとの回答を得た。

### ④茨城高専地域協働サポートセンター（以下「茨城高専SC」と記載）関係

教育研究助成のためとして650,000円の寄付金を受領し、下記の事業を実施した。また、平成29年度に受領した寄附金のうち、平成30年度に繰越した100,000円にて、下記の事業を実施した。

#### 1) 茨城高専活動支援

##### 《実施事業》

##### (a) 国際交流事業（朝鮮理工大学との交流活動費）49,380円

平成31年1月15日から2月12日にかけて、朝鮮理工大学生10人を受入れた。茨城高専における授業の受講のみならず、筑波山、偕楽園（好文亭）、明治神宮、豊洲市場、秋葉原電子街の見学及び日本式温泉体験を行い、茨城県及び日本国の魅力を伝えた。また、2月8日に日本語研修の成果発表として朝鮮理工大学生のスピーチ及び本校学生との交流を目的とした送別懇談会（参加者：朝鮮理工大学生10

人、本校学生 20 人、本校教職員 10 人) を実施し、学生間及び両校関係者間の友好を深めた。

(b) 第二ブロック研究推進事業 95,020 円

廃コーヒー滓の再利用に関する研究では、コーヒーの抽出残渣を用いた吸着材の性能評価を行った。この吸着材を模擬廃水に適用したところ、最適条件の下で水質汚濁物質であるホウ酸を 80 %以上除去可能であった。またこのときのホウ酸の吸着率は、弱酸性～中性で大きくなることを明らかにした。なお、ホウ酸の吸着・除去率を評価する際には当事業の補助により導入した原子スペクトル分析装置管球（ホロカソードランプ）を活用した。

(c) 研究紹介事業（J-PARC 見学）59,400 円

平成 30 年 12 月 18 日に専攻科 1 年生 22 人が東海村にある J-PARC（大強度陽子加速器施設）において、物質・生命科学実験施設、ニュートリノ実験施設、リニアック棟の見学会、国立大学法人総合研究大学院大学の紹介及び卒業生との交流会を行った。見学を通して世界最先端のビックサイエンス施設の 1 つである J-PARC の魅力を満喫するだけでなく、総合研究大学院大学で学ぶことの魅力や J-PARC で働くことの魅力を聞くことができた。

(d) グローバル副専攻に係る補助事業 98,028 円

事業費にて取得したアルミ枠ピンマグネット掲示板を管理棟 2 階 物理第二実験室の廊下壁に設置して、グローバル副専攻に係る案内書類等を掲示している。併せて、案内書類を掲示板に止めるマグネットバー、超強力カラーマグネットも取得した。

(e) 学生所有 PC の有効利用促進事業 197,661 円

事業費にて取得した Analog Discovery2-NI Edition、BNC アダプタ、Scope Probes を使用して、学生所有の PC に電圧計、直流交流電源、オシロスコープ、温度計の機能を持たせ、平成 31 年度からの物理の実験で利用できるように準備を進めている。

(f) 研究推進経費（廃コーヒー滓を用いたホウ素含有廃水の処理）151,054 円

学内募集を行った平成 30 年度研究推進経費に対し、化学・生物・環境系 澤井助教から申請のあった「廃コーヒー滓を用いたホウ素含有廃水の処理」の研究において研究に必要な物品を取得した。

平成 29 年度に受領した寄付金で平成 30 年度に繰越した 100,000 円の執行

(g) 研究推進経費（重金属を利用した機能性錯体化合物の創製）100,000 円

学内募集を行った平成 30 年度研究推進経費に対し、化学・生物・環境系 小松崎教授から申請のあった「重金属を利用した機能性錯体化合物の創製」の研究において研究に必要な物品を取得した。

⑤茨城高専ギャラリー・キックオフ 2019

3月1日にひたちなか市文化会館コミュニティ棟2階にて、茨城高専が持つ高度な知識や技術の外部での利用を促すことを目的として「茨城高専ギャラリー・キックオフ 2019」を開催した。第一部をセミナーの部として、榎サザコーヒー代表取締役 会長 鈴木 誉志男氏の招待講演、本校教員のテーマ説明及び茨城県学生ビジネスプランコンテスト最優秀賞受賞 本科1年生 熊谷 愛美さんのプレゼンテーションを行った。コーヒープレイクを経て、第二部を研究・事例発表会として33件のポスター発表及びWeb×IoTメイカーズチャレンジ2018-19in茨城出場チームによる実演を行った。外部から44人が来場され、全体的に好評であった。

⑥卒業生の就職相談関係

平成29年度末に卒業して大学に編入学した方から、茨城高専HPに掲載している卒業生就職相談窓口をとおして就職相談を受けた。相談者、茨城高専SC及び茨城高専教員が集まり希望業種等をヒアリングした後、茨城高専SCから事務局を経由して相談者へ希望業種に該当する数社を紹介した。その後、相談者が紹介された会社へ連絡し会社訪問及び面談の結果、その会社から内定を受けた。

【地域共同テクノセンター】

①茨城高専知財委員会による審査

発明等届審査：2件、審査請求審議：1件、年金納付審議：7件、特許権及び知的財産の譲渡審議：2件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	件名	担当教員	審査結果
発明等届	洋上移動体の姿勢制御システム並びに該姿勢制御システムを有するブイ	M系 岡本教授	機構へ提出
発明等届	電流検出装置およびそれを用いた半導体装置	E系 長洲教授	機構へ提出
審査請求	特願 2015-198366 結晶化分析装置及び結晶化分析方法	E系 若松教授	審査請求する
年金納付	特許登録第 5626914 号 生体高分子の結晶化装置、生体高分子の結晶化溶液セル、生体高分子の配向制御方法、生体高分子の結晶化方法、及び生体高分子の結晶	E系 若松教授	年金納付する 第5年分
年金納付	特許登録第 5821127 号 タンパク質結晶化分析装置及びタンパク質結晶化分析方法	E系 若松教授	年金納付する 第4年分

年金納付	出願番号米国 13/254726 生体高分子の結晶化装置、生体高分子の結晶化溶液セル、生体高分子の配向制御方法、生体高分子の結晶化方法、及び生体高分子の結晶	E系 若松教授	年金納付しない
年金納付	特許登録第 5858274 号 結晶化促進方法、結晶化解析方法、結晶の製造方法、結晶化装置の制御プログラム、記録媒体、及び結晶化装置	E系 若松教授	年金納付する 第4年分
年金納付	特許登録第 5576216 号 測定装置および測定方法	E系 若松教授	年金納付しない
年金納付	特許登録第 5864962 号 熱電変換素子出力制御装置【共同出願人全額費用負担】	E系 田辺囑託教授	年金納付する 第4年分
年金納付	特許登録第 5847339 号 非接触交流電圧測定装置【共同出願人全額費用負担】	E系 皆藤准教授	年金納付する 第4年分
譲渡	特許登録第 5441062 号 ゆらぎ信号発生装置、ゆらぎ信号発生方法、及びゆらぎ信号発生プログラム（発明者：住谷 正夫）	住谷 正夫 (元茨城高専教員)	発明者へ 譲渡する
譲渡	特願 2017-162843 半導体素子の駆動回路（共同発明者：㈱日立製作所）	E系 長洲教授	共同発明者へ 譲渡する

## ②研究成果の外部公表

### 1) フェア等参加

5月23日～24日：2018NEW 環境展（東京ビッグサイト） C系 依田准教授

8月29日～30日：イノベーション・ジャパン 2018—大学見本市（東京ビッグサイト）  
E系 若松教授

9月5日～7日：JASIS2018「研究機関・学協会コーナー」（幕張メッセ国際展示場）  
E系 若松教授

2月19日：めぶき FG ものづくり企業フォーラム 2019（つくば国際会議場）

M系 小野寺准教授、I系 市毛教授、クルト係員

### 2) 学内からの発信

研究彙報（第54号）（I系特命教授 兒玉教員、L部特命助教 二田教員投稿）を作成し、茨城高専ホームページに掲載して外部へ公表する。また、茨城高専国際創造工学科シー

ズ集（95頁）を200部作成し、今後、(株)ひたちなかテクノセンター、なかネットワークシステム(NNS)総会、(株)ひたちなかテクノセンターのコーディネーター、企業相談に来た企業、茨城高専ギャラリー・キックオフ2019参加者へ配布した。なお、上記シーズ集はPDFにて茨城高専ホームページにも掲載している。

### ③校長裁量経費の活用

研究推進経費として総額700,000円をL部 千葉准教授、L部 加藤助教、C系 小松崎教授、C系 岩浪准教授、C系 澤井助教に配分。また、論文投稿支援事業として総額240,340円をL部 三橋准教授、M系 鯉淵教授、E系 成教授、E系 澤畠准教授、C系 小松崎教授に支援。

### ④ひたちなか市との包括連携協定関係

#### 1) なかネットワークシステム(NNS)関係

5月30日：通常総会・交流会（ひたちなか商工会議所）喜多校長、I系 市毛教授

M系 長谷川准教授、C系 石村准教授、吉田事務部長、山田総務課長出席

9月15日：コーディネーター養成講座 実践講義 講演者 I系 市毛教授

1月30日：NNS 新年賀詞交歓会（ひたちなか商工会議所）喜多校長、I系 市毛教授

M系 長谷川准教授、E系 弥生准教授、吉田事務部長、山田総務課長出席

2月8日：NNS ひらめきサロン（茨城高専図書館棟1階視聴覚室）

演題：茨城高専におけるシミュレーション活用事例のご紹介—マルチエージェント—  
（講師 茨城高専 I系 兒玉 隆一郎 特命教授）

演題：ソフトウェア品質技術者のホンネ～ソフトウェア品質の変遷とリスク～  
（講師 株式会社日立ハイテクノロジーズ 飯泉 紀子 氏）

#### 2) 市民大学の開講

そうだったのか！微分積分～微分積分再入門～を以下の日程で、図書館棟1階視聴覚室を会場として開講した。

回	開催日	講義内容	講師
1	6月23日	微分法の歴史：歴史的視点からの微分法	河原教授
2	7月7日	極限：数列の極限と関数の極限	五十嵐准教授
3	7月21日	微分係数：曲線の接線と傾き	今田講師
4	7月28日	関数の微分と関数のグラフ：導関数、関数の増減と凹凸、曲線の概形	今田講師
5	8月4日	微分の応用：速度、加速度、関数の近似	今田講師
6	9月1日	積分法の歴史：歴史的視点からの積分法	河原教授
7	9月15日	数列の和：いろいろな数列の和の求め方	河原教授
8	9月29日	定積分・不定積分：微分積分学の基本定理	坂内准教授



9	10月6日	積分の応用：面積と体積の計算、曲線の長さ	五十嵐准教授
10	10月27日	微分方程式：微分積分の物理への応用	五十嵐准教授

### 3) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

11月3日、4日に、ひたちなか市総合運動公園 総合体育館2階にて開催され、茨城高専から下記7件出展した。

- 1 温度で色が変わる絵や文字を書こう！（C系）
- 2 おもしろパワー！！エレキ・ワールド（E系）
- 3 作って楽しい！見て楽しい！ビー玉万華鏡を作ろう！（技術教育支援センター）
- 4 作ろう紙コップロボット（M系 飛田教授）
- 5 バチッと花火でロボルト君をつくろう！（地域共同テクノセンター）
- 6 メカメカフェア2018（M系 加藤准教授）
- 7 君は雨粒を見たことがあるか？！—落下についての楽しい物理実験—（L部 原教授）

### 4) 産業活性化コーディネーターによる産学連携事業

なかネットワークシステム(NNS)後援の公開講座（3次元CAD入門）を開講した。受講者：8人

### 5) その他の支援事業

- 1 ひたちなか市学習支援事業「ひたちなか未来塾」への学生協力（11人）
- 2 青少年活動支援事業 平成31年成人の集いへの学生協力（4人）

## ⑤ 科学研究費助成事業講習会の開催

9月12日に、科学研究費助成事業への応募の活性化および採択件数の増加を目的とした平成30年度科学研究費助成事業講習会を大会議室にて開催し、喜多校長とE系 関口教授が講師として講演した。その後、事務担当者から翌年度の応募についての説明を行った。参加者：教員32人、事務職員4人・技術職員3人。

## 【研究協力・地域連携係関係】

### ① 国内の大学等との連携協定に係る事業

#### 1) 筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎（PBL 演習）」へ大学院留学生（システム情報工学研究科5人、数理物質科学研究科0人）をティーチングアシスタント(TA)として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。

また、茨城高専専攻科生のインターンシップを夏季休業期間の8月下旬から9月中及び春季休業期間中の3月中旬から下旬の間に実施した。システム情報工学研究科5人（うち1人は3回実施）、数理物質科学研究科0人であった。

## ②外部資金の受入

平成 30 年度外部資金受入一覧（件数と受入金額）

資金種別	受入件数	受入金額（円）	備考
共同研究	13 件	10,622,558 円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	0 件	0 円	
受託事業	1 件	600,003 円	いばらき創業 10,000 社
補助金	2 件	6,877,000 円	COC+、水産資源回復対策事業
研究助成金	1 件	1,021,000 円	中谷医工計測技術振興財団
寄附金	10 件	6,823,142 円	教育研究基金 2 件を含む。
技術相談料	2 件	216,000 円	
科研費	26 件	直接 26,300,000 円 間接 7,788,000 円	補助金 5 件、基金 14 件、分担金 7 件（研究代表者が学内者の 2 件は含まない）

## ③第 2 ブロック研究推進ボード

第 2 ブロック研究担当主査の喜多校長の下、研究推進会議の日程調整・運営、機構本部とブロック内各担当との連絡調整、研究情報交換運営を行った。12 月 23 日に筑波大学東京キャンパスにて第 2 ブロック研究情報交換会を実施した。研究交流分野を 1) 高専の注力するテーマ（7つの研究分野）、2) 新規研究分野提案、3) 大分野別分類（6つの分野）に分類し、研究テーマ毎にグループを作り、研究グループの研究分野の内容紹介と共同研究への発展を目的とした発表と、研究分野の新規提案と統合、これから人材が求められる分野や発展性の高い分野、共同研究に効果をあげそうな分野等での新規提案を行い、研究分野での統合について検討した。

## ④Researchmap への登録

教員に対して Researchmap への登録を依頼し全教員の登録を確認した。

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 茨城高専ギャラリー・キックオフ 2019 は参加者から好評をいただいた。第 2 回開催にあたっては、アンケート結果の反映等、茨城高専を効果的にアピールできるように内容を検討する。
- ② 地方創生推進事業COCプラス事業は平成 31 年度末をもって終了する。事業終了後の地方創生については、いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）が主体となって進められていくので、茨城大学他の参加機関（平成 31 年 3 月 31 日現在、13 機関）と連携して地方創生事業を実施していく。今後のコンソーシアムの展

開に合わせて本校の活動を検討する必要がある。ちなみに、令和3年度のコンソーシアム総会の開催校として本校が予定されている。

設備面の課題としては、COCプラス事業で取得したVCS配信装置（第Ⅲ教室棟大教室にあるTV会議システム、100インチスクリーン2枚、プロジェクター1台）の活用方法及び保守費用の捻出があげられる。

- ③ 卒業生就職相談については、相談者の就職斡旋が成功したことを受けて、より効率的な学内及び学外との連携方法を確立する必要がある。
- ④ 校長裁量経費を原資とした研究推進事業については、校長の研究活動に対する考え方を基に事項を設けて、効果的な予算配分を考え学内募集を行う。
- ⑤ 研究成果の外部公表については、フェア等の募集を学内周知して参加者を募る。また、シーズ集の次回作成は令和2年6月に新任教員分を含めて作成を行うこと及び発行内容、研究彙報第55号（令和元年度分）の発行内容について担当部局において検討する。
- ⑥ 平成26年に任命した第1期の客員教授10人の任期が令和元年9月30日までであること及び、第2期の客員教授6人の任期が令和2年3月31日までであることを受けて、客員教授の活用方法を含めて任期の継続または終了を検討する。

### (3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

社会貢献の機能として、小中学生向けの科学技術啓発活動や市民大学講座を中心に行ってきた。これらに加え、これからの高専の使命として、地域産業への貢献や地域創生の機能が取り上げられ、さらに地域産業や自治体との高度の連携が必要となる。高度の意味するところは、高専の持つ高度な知識や技術の外部での利用を促すことであり、技術移転や技術相談、共同研究などが含まれる。これによって高専学生の教育においても地域産業や自治体との協力が得られると期待する。

### 1 3. 教育組織(教員任用審査会)

#### (1) 取組実績

##### ① 採用

- ・ 平成 30 年 10 月 1 日付けで、育児休業代替教員として、一般教養部(英語)に講師 1 人を採用した。
- ・ 平成 31 年 1 月 1 日付けで、育児休業代替教員として、化学・生物・環境系に講師 1 人を採用した。
- ・ 平成 31 年 4 月 1 日付けで、欠員補充として、一般教養部に助教 1 人(数学)を採用した。
- ・ 平成 31 年 4 月 1 日付けで、欠員補充として、機械・制御系に助教 1 人を採用した。

##### ② 昇任

- ・ 系から推薦後、校長から昇任審査実施の通知があった候補者 1 人に対し審査を実施し、平成 30 年 7 月 1 日付けで助教 1 人を准教授に昇任させることを承認した。
- ・ 各系等から推薦後、教員任用審査会における資格確認を経て校長から昇任審査実施の通知があった候補者 2 人に対し審査を実施し、平成 31 年 4 月 1 日付けで准教授 2 人を教授に昇任させることを承認した。

##### ③ 再雇用

- ・ 平成 31 年度再雇用を希望する教員 6 人に対し、国際創造工学科長及び各系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、6 人全員の再雇用計画を承認した。
- ・ 平成 31 年度に本校での再雇用を希望する他高専の教員 1 人に対し、国際創造工学科長から提出された再雇用計画の審査を行い、再雇用受入を承認した。

##### ④ 特命教員

- ・ 学科改組及びタイからの留学生受入に伴い雇用された特命教員 5 人全員について契約更新を行うことが確認された。

##### ⑤ 非常勤講師

- ・ 平成 30 年 4 月 12 日付けで、通年で授業を担当する非常勤講師 1 人を採用した。
- ・ 平成 30 年 4 月 24 日付けで、通年で授業を担当する非常勤講師 1 人を採用した。
- ・ 平成 30 年 8 月 27 日付けで、夏季集中講義科目を担当する非常勤講師 1 人を採用した。
- ・ 平成 30 年 9 月 18 日付けで後期開講授業科目を担当する非常勤講師 11 人を採用した。

- ・ 各系等から推薦のあった平成 31 年度非常勤講師候補者について審査を行い、平成 31 年度は 47 人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

⑥ その他

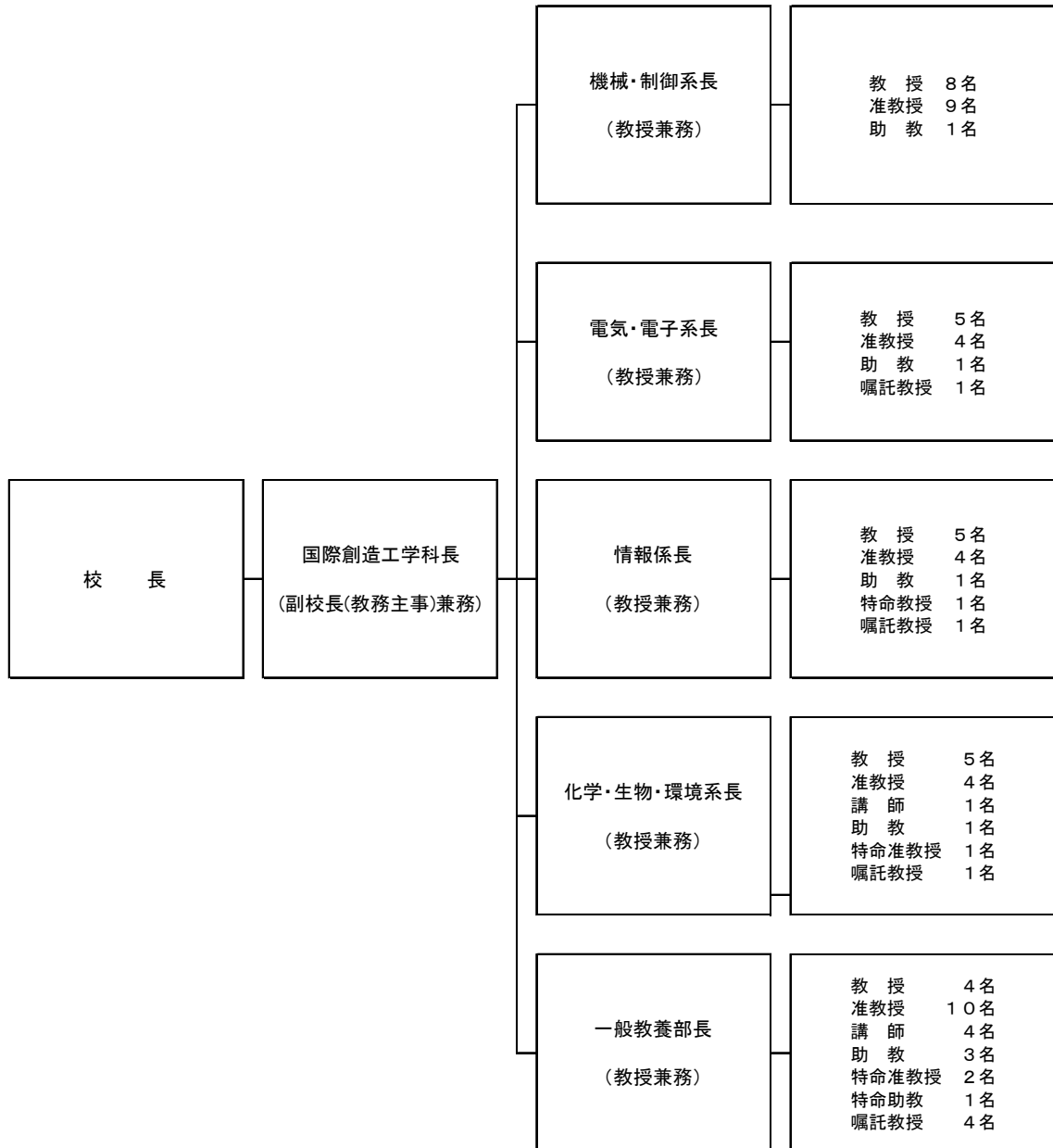
- ・ 高専間の教員相互派遣について、平成 31 年度に福島高専と各 1 人の相互派遣を行なうこととした。
- ・ 派遣者が先方において担当する授業は、1 時限目と 2 時限目に行うこととし、授業終了後は午後の始業時間までに本校へ戻ってくるものとする。
- ・ 当該派遣者の派遣は来年度のみとし、5 年生の担任を務める再来年度は派遣しない。
- ・ 再来年度以降の教員派遣については、改めて検討を行う。
- ・ 一般教養部から配置要望が出されたが、教育体制整備の動向が不透明であったことから保留となった。
- ・ 教員公募第二次審査においては、以下の項目を選考基準に含めることを原則とし、評価にあたっては、以下の各選考基準及び必要に応じて当該公募の特徴を踏まえて追加した選考基準により評価を行うこととした。

<選考基準>

1. 授業能力
  2. 学生への生活指導力
  3. 研究力
  4. グローバル化対応
  5. 協調性・適応力(人物評価を含む)
- ・ 平成 31 年 4 月 1 日付け昇任に係る審査から、「教育活動」、「学生生活指導」、「教育・研究を通じた社会への貢献」、「管理運営(教授申請のみ)」の各事項について自己申告書を作成することとした。

## 教育職員 配置図

平成31年4月1日現在



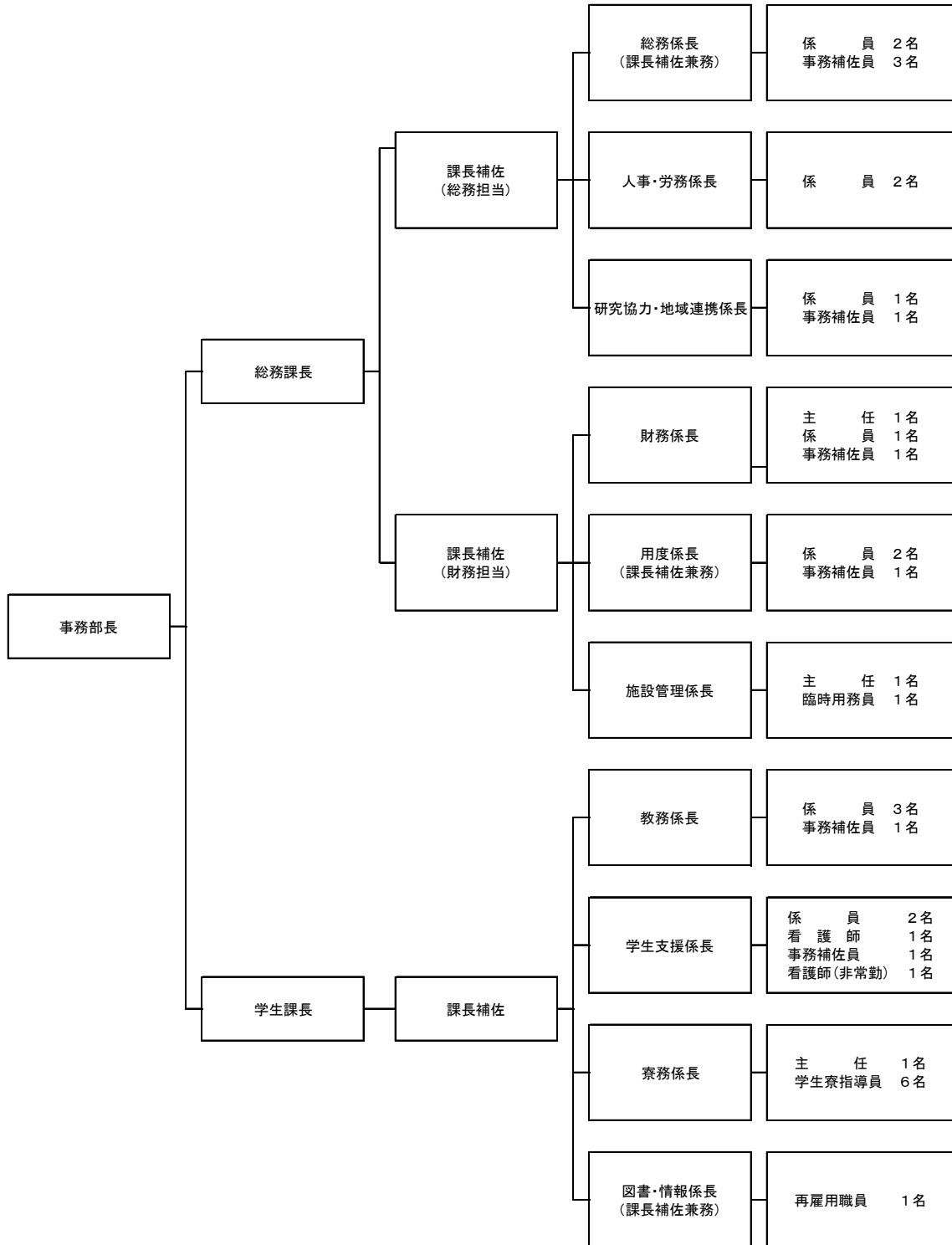
## 1 4. 教育支援組織(事務部)

### (1) 取組実績

- ① 平成 30 年 9 月 1 日付けで、学校保健分野の強化・充実を目的として、学生課に非常勤職員の看護師を採用した。
- ② 平成 30 年 11 月 1 日付けで、キャリア教育の推進を目的として、学生課学生支援係に企業メンター10 人を採用した。
- ③ 平成 31 年 4 月 1 日付けで本校での再雇用を希望する他高専の事務職員 1 人を再雇用した。
- ④ 平成 31 年 4 月 1 日付けで、後任補充として総務課研究協力・地域連携係に事務補佐員 1 人を採用した。
- ⑤ 本校から出向中の職員 3 人に対しヒアリングを実施し、現状把握等を実施した。

## 事務職員 配置図

平成31年4月1日現在



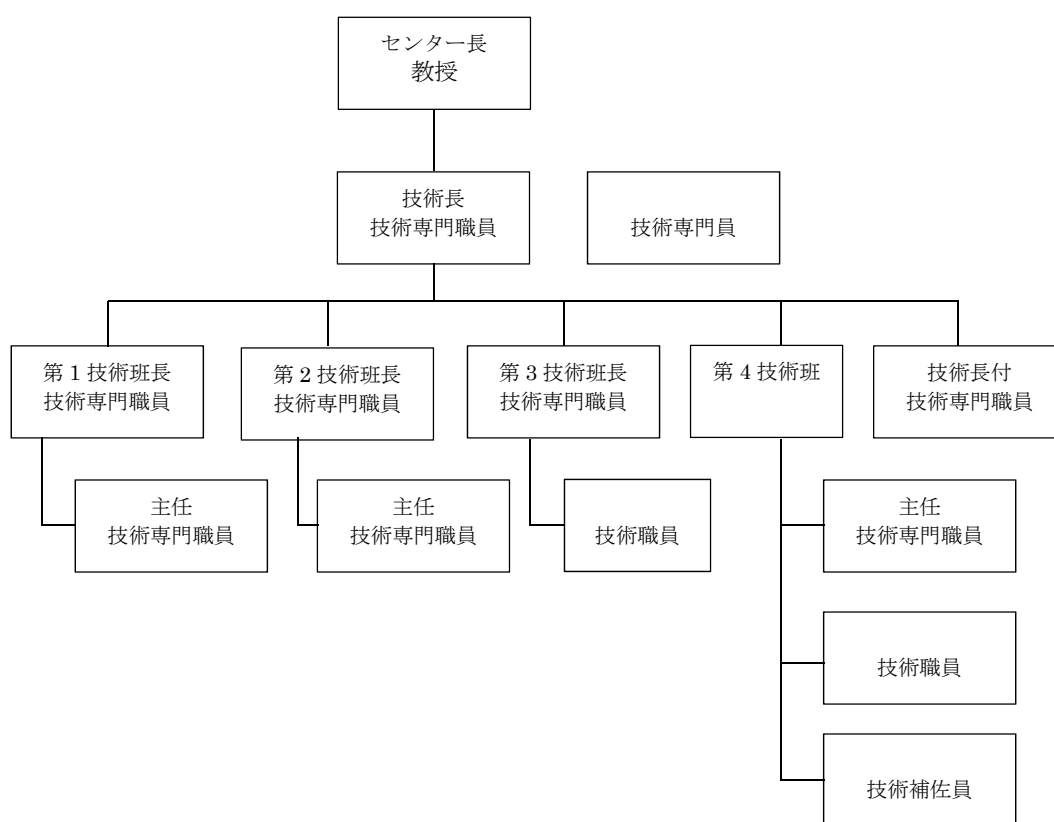


## 1 5. 教育支援組織（技術教育支援センター）

### (1) 取組実績

技術教育支援センターは、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

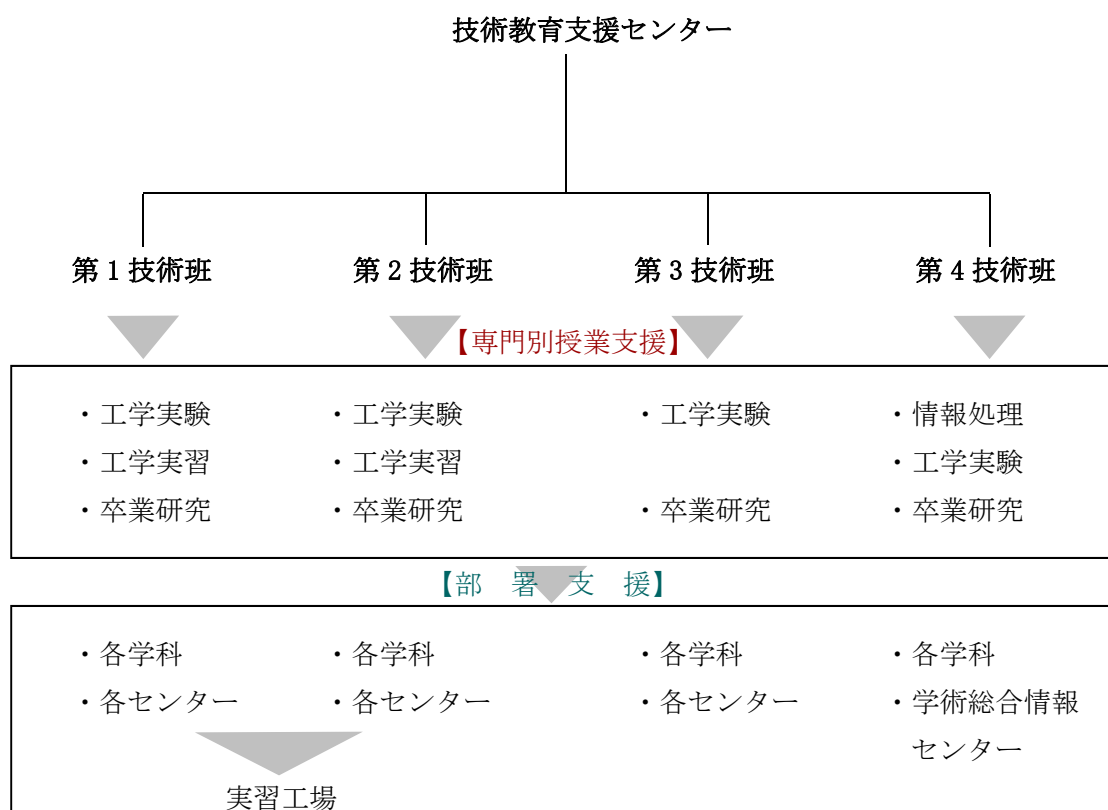
#### ①組織



技術教育支援センター組織構成図（平成 30 年 4 月 1 日）

#### ②職務内容

- 1) 技術教育支援センターとしての全般的業務
- 2) 各班の業務
  - イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口
  - ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施
- 3) 職務遂行部署（個人の活動部署）



### ③授業等への支援

支援業務の中核となる実験、実習、演習等への支援は、平成30年度開始前に各学科、各部署から要請を受け、それらを調整し技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表にまとめ原案作成を行った。その後運営会議の了承を得て支援業務を実施した。

### ④製作、作業支援

“ものづくり”の拠点となる実習工場への期待と需要は年々高まる傾向にあり、依頼製作における形状の複雑化が顕著となっている。卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作支援など全学科のみならず、エコランカー、レース用EVフレームの製作依頼等も増加の傾向にある。また、物質系分野では水質分析を行うなど多岐に渡り手がけた。

### ⑤講習会等の開催

本センターでは例年、学生の創作活動支援の一環として、部・同好会を対象とした基本機械操作講習会を開催している。本年も講習会を開催し、多くの学生が受講した。

基本機械操作講習会

実施期間：A. 平成30年5月14日（月）～16日（水）・21日（月）

B. 平成30年7月2日（月）～18日（水）

講習会場：実習工場

対 象：ロボット部・自動車部

講習内容：1. ケガキ方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法

2. 高速切断機、コンターマシンの操作法、ヤスリの使用法

3. 卓上フライス盤の使用法

指 導 者：機械系技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

## ⑥社会貢献

### 1) おもしろ科学セミナー2018

毎年本校にて小中学生向けに開催される茨城高専おもしろ科学セミナーに、今年も講座を開講した。本年は新テーマ「作って楽しい！見て感動！立体万華鏡」のもと、立体万華鏡の製作を行った。

午前と午後、2回の講座を通して合計で約40人の子供が参加し、世界に1つだけのオリジナル立体万華鏡を製作した。

日 時：平成30年8月17日（金）午前の部9:30～12:00／午後の部13:00～16:00

内 容：作って楽しい！見て感動！立体万華鏡

開催場所：茨城高専MM室

### 2) 青少年のための科学の祭典での出展

本センターではひたちなか市総合運動公園総合体育館にて開催された、青少年のための科学の祭典ひたちなか大会2018に参加した。

本大会では、ビー玉と鏡を用いて鮮やかな模様を写し出す、ビー玉万華鏡を出展した。結果は盛況で、技術センターブースには80人近くの子供が立ち寄り、皆思い思いに万華鏡製作を楽しんでいた。

日 時：平成30年11月3日（土）

内 容：作って楽しい！見て楽しい！ビー玉万華鏡を作ろう！

開催場所：ひたちなか市総合体育館

## ⑦会議開催の記録

平成30年度技術教育センター管理運営会議

平成30年5月25日（金）

1) H.29 技術教育支援センター活動報告について

2) H.30 技術職員週間スケジュールについて

3) 技術職員の科学研究費応募について

4) 地域貢献活動について

5) 技術職員研修会について

6) 関東信越地区国立高等専門学校技術長等会議について

7) 技術教育支援センターニュースについて

⑧ 技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

\* 複数資格取得者含む

平成31年 3月31日 現在

分類	資格名	取得者数
職業訓練指導員	職業訓練指導員（機械）	4
	職業訓練指導員（電気）	2
	職業訓練指導員（化学分析）	1
技能士	特級機械加工技能士	1
	特級機械保全技能士	1
	1級機械加工技能士（普通旋盤作業）	2
作業環境測定士	第1種作業環境測定士（鉱物性粉じん）	1
	第1種作業環境測定士（特定化学物質）	1
	第1種作業環境測定士（金属類）	1
	第1種作業環境測定士（有機溶剤）	1
衛生管理者	第1種衛生管理者	4
作業主任者	エックス線作業主任者	1
	特定化学物質等作業主任者	2
	鉛作業主任者	1
特別教育 インストラクター	局所排気装置等定期自主検査 インストラクター	1
電気工事士	第2種電気工事士	2
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者	1
教員免許	中学校教諭免許状（理科）	1
	高等学校教諭免許状（理科）	1
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者	2
危険物取扱者	乙種第4類危険物取扱者	6
特別管理産業廃棄物 管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
技能講習	ガス溶接技能講習	3
	玉掛け技能講習	1
	フォークリフト運転技能講習	1
特別教育	アーク溶接特別教育	2

	自由研削砥石特別教育	5
	機械研削砥石特別教育	2
	プレス・シャー金型交換特別教育	2
	特定粉じん作業特別教育	5
	クレーン運転業務特別教育（5トン未満）	1
情報技術者	基本情報技術者	1
	第2種情報処理技術者	1
CAD利用技術者試験	2次元CAD利用技術者試験2級	1
ビジネス・キャリア検定	2級生産管理オペレーション （作業・工程・設備管理）	1

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 技術教育支援センターで8月に行っている公開講座「おもしろ科学セミナー」について講座内容及び人数の見直しをする。
- ② 技術教育支援センターで11月に行っているひたちなか市「科学に祭典」、これについても講座内容及び人数の見直しをする。
- ③ 授業支援「実習・実験等」留学生に対するきめ細かい指導を徹底する。

## (3) 今後の展開

### ① 技術教育支援センターの長期ビジョンの策定

様々なニーズに即した技術教育支援を実現するための基盤を作る。その実現に向けて職員のスキル向上および最新の技術・教育の習得に努める。具体的には研修会や講習会、資格取得といった機会の積極的な活用を通して自身の技術と知識の向上を図ると共に、自身の見識を広げ種々の要望に対応可能なように努力する。更に実習工場の高機能化した設備・環境を活かし、支援能力の向上を図る。

### ② 国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った指針

技術職員の資質向上に向けて学会発表や研修会、他機関との交流に対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得を目指す。加えて社会・機構のグローバル化に適した技術支援体制の構築を図る。

### ③ 多岐に渡る支援業務への対応

各々の技術を活かし、センターとして多岐多様な支援を円滑に行うよう努める。

### ④ 地域貢献と広報活動の活発化

高専の認知度向上の一環として小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動に取り組む。同時に技術教育支援センターニュース（年2回程度）やセンターのウェブサイトにおいてリアルタイムに内外へ発信する。

## 16. 予算及び施設・整備（総務委員会）

### (1) 取組実績

#### ① 予算

予算については、運営交付金算定ルールによる効率化の減額が続き厳しい状況の中、当初配分方針に基づき教育の質が落ちないように学科（系・一般教養部）等への配分は現状維持に努め委員会等経費、教育等施設基盤経費及び校長裁量経費を減額配分した。当初配分では毎年減額が続いているものの①決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、②計画的な採用抑制への取組みを図ることで教育改革推進経費の増額に努め追加配分（22,103千円）を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し各系・一般教養部への機器等更新（4,995千円）を行い、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した整備（教室棟外壁補修工事、教員室空調機更新、照明設備人感センサー取付工事、トイレ改修工事及びブロック塀対策経費等 9,969千円）を実施することで、予算の有効活用を推進した。

期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の50%を4月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

#### ② 施設・整備

施設整備については、機構本部から施設維持管理として教育等施設基盤経費が予算配分され38,094千円を施設維持管理費等の施設関係に配分することで安心・安全な教育研究環境の基盤整備に努めた。

また、基幹・環境整備として第1教室棟・電子情報工学科棟空調設備改修工事（執行額15,498千円）及びブロック塀対策工事（執行額7,020千円）を実施した。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン2018に基づき、老朽化の著しい施設の改修・解体、冷暖房設備の一部更新、情報通信設備の増設、環境・体育施設の整備及び緑地管理を実施した。

#### ③ 業務の改善

物品（現品確認）検査については、実施方法とスケジュールの見直しを行い、グループウェアに物品リスト及びスケジュール表を公開し実施することで、業務の効率化を図った。

また、契約担当係において、情報工学演習室演習室システムの更新にあたり、業務運営の見直しを図り、コスト削減（前契約額比：△48.6%）の改善を図った。

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

### ① 予算

毎年当初配分の減額が続く中、教育の質を維持するため茨城高専では集約予算を有効活用し学生の実験実習の経費に追加配分することで、平成16年度当初配分並みの学科（系・一般教養部）等教育研究経費を維持している。集約予算については、その殆どが追加配分の教育改革推進経費や授業料免除額による収入予算の減額（支出予算は減額なし）が占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、産学連携による機能強化を図ることで財源の確保が必要となる。

また、消費税の増額分についても、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、特に委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並びに教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

### ② 施設・整備

キャンパスマスタープラン2018の各プランに基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構インフラ長寿命化計画2018が策定され、本校の施設整備に係る基本方針（長・短期計画等の策定）の見直しを行う必要があり、今後は、施設整備の充実に取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境を確保していく。

### ③ 業務の改善

物品（現品確認）検査については、系・一般教養部から検査対応の代表者を選出し系・一般教養部内の調整をしてもらうことで検査担当者の負担が軽減された他、検査所要時間を短縮するため、資産管理台帳（写真付）の更新を行った。

また、学科改組に伴う資産・備品の管理部門の移行（従来の5専門学科から各系）への準備を行うとともに、老朽化・陳腐化が著しく更新が必要な大型設備の導入支援を図る必要がある。

## (3) 今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、少しでも財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革をしていく必要がある。

## 17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

### (1) 取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

#### ①安全衛生管理

##### 1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月1回安全衛生委員会を開催した。

##### 2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

##### 3) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

12月～1月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

#### ②安全衛生啓発活動及び訓練

##### 1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

##### 2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

##### 3) 学寮避難訓練の実施について

4月及び10月に学生寮における避難訓練を実施した。

##### 4) ヒヤリハット・事故事例等の取りまとめ及び周知

ヒヤリハット・事故事例について取りまとめを行い、グループウェア・サイボウズにより学内周知を実施した。

##### 5) 普通救命講習会の実施について

ひたちなか・東海広域事務組合消防本部に依頼し、3月に普通救命講習会を開催した。13人が受講し、全員が修了した。

#### ③心と体の健康づくり

##### 1) 健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、該当者全員（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）が受診した。



また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては産業医面談を実施し健康指導等を実施した。

#### 2) ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

ストレスチェックの結果を踏まえた産業医による講演会を実施し、37人の教職員が聴講した。

#### 3) 文部科学省共済組合保健経理厚生費事業の実施について

上記事業としてインフルエンザ予防接種又はマスク・消毒液の配付いずれかを選択する感染症対策事業を実施した。

インフルエンザ予防接種については、別途予算措置を行い、非常勤職員の内、希望者については文部科学省共済組合保健経理厚生費事業と同額の補助を実施した。

#### 4) 産業医の交替について

派遣元の派遣計画変更に伴い、主にメンタルヘルスを担当する産業医が9月から交替となった。

### ④安全衛生教育

#### 1) 「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

#### 2) 衛生管理者能力向上教育の実施について

衛生管理者1人を茨城労働基準協会連合会中央安全衛生教育センターで開催される衛生管理者能力向上教育に派遣し、衛生管理者の知識習得、能力向上を図った。

#### 3) 作業環境測定士の確保・充足

教員1人が第二種作業環境測定士の資格を取得し、本校の作業環境測定実施体制の強化が図られた。

#### 4) 危険物取扱者(甲種)の確保・充足

教員1人が危険物取扱者(甲種)の資格を取得し、本校の薬品管理体制等の強化が図られた。

### ⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

#### 1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

#### 2) エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

#### 3) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、業者へ委託し廃棄処理をした。

#### 4) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

本校の作業環境測定士を中心として、以下のとおり実施した。

9月 作業環境測定(有機溶剤、特定化学物質)及び大気環境中のアスベスト濃度測定

11月 作業環境測定(粉じん)

3月 作業環境測定(有機溶剤、特定化学物質) 及び大気環境中のアスベスト濃度測定

#### 5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、3月に局所排気装置の点検を実施した。

### ⑥その他

#### 1) 組換え DNA 実験実施計画の承認

組換え DNA 実験安全専門部会から、新規組換え DNA 実験実施計画(全件機関届出実験)について報告を受けた。

#### 2) エックス線発生装置の設置について

11月に水戸労働基準監督署へ届け出た後、1月に管理棟2階物理測定室にエックス線発生装置を設置した。

#### 3) 各種有害業務等に係る調査の実施

12月に労働安全衛生環境の向上等を目的として各種有害業務等に係る調査を実施した。

## (2) 自己評価(改善含む)及び課題

- ① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。
- ② 衛生管理者能力向上教育への衛生管理者派遣については、最新情報の取得や最近の動向把握にも役立つため、継続実施が有効である。
- ③ 普通救命講習会の実施については、再講習が必要とされる2、3年後には全教職員が一度は受講を終えているよう、定期的開催できるようにする。

## (3) 今後の展開

- ① 以前からの課題として「学校安全の心得」の改定作業があげられているため、改定実施に向けた取組みを実施する必要がある。
- ② 作業環境測定士等の有資格者を複数人確保し、当該有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制の構築については、引き続き強化を図っていく。

## 18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

### (1) 取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

#### ① J A B E E 中間審査受審

平成 27 年度に J A B E E 継続審査（6 年間認定）を受審した結果、継続が認定されたが一部の点検項目で W 及び [C] 判定があったため、3 年間の継続となり、今年度に中間審査を受審した。

平成 30 年 6 月に自己点検書を提出し、平成 30 年 10 月に実地審査を受審した結果、前回 W 及び [C] 判定の点検項目は全て A 判定となり、2020 年度までの継続が認定された。

#### ② 授業評価アンケートの実施

前期開講科目は前期期末試験終了後に、後期開講科目及び通年開講科目について後期期末試験終了後に授業評価アンケートを実施した。アンケートは、原則全科目・全教科を対象として実施した。

個人の評価については、各学科長等及び各個人にフィードバックし、全体の集計結果については、学生には掲示、教員にはグループウェアで公表した。

#### ③ 学習指導法等の工夫・改善事例報告書の作成

前年度の授業評価アンケートで基準点を超えた教員から、授業での取り組みを記載した学習指導法等の工夫・改善事例報告書を提出してもらい、グループウェアに公表した。優れた取り組みが認められた教員 2 人を表彰した。

#### ④ 教育改善計画会議の開催

「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せに」に基づき、教育の改善内容について協議する、教育改善計画会議を次のとおり開催した。

第 1 回 平成 30 年 11 月 31 日

議題：定期試験問題及び授業改善計画書に基づく協議

第 2 回 平成 30 年 12 月 19 日

議題：1 年生の数学科目教育に関する意見交換

第3回 平成31年3月14日

議題：定期試験問題及び授業改善計画書に基づく協議

#### ⑤ 参与会の開催

本校以外の有識者に、教育研究活動等の状況についての評価及び助言等の提言をいただき、改善を行うことを目的とした参与会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：平成30年11月14日（水）
- ・ テーマ：「高専を取り巻く環境：ー 現状と未来 ー」  
「茨城高専の教育システムについて」
- ・ 参与出席者：茨城大学工学部長、筑波大学副学長・理事、  
ひたちなか市立勝田第一中学校長、ひたちなか市企画部長  
ひたちなか市商工会議所副会頭、(株)ジェネシス代表取締役

#### ⑤ F D 研修会の開催

教員の教育改善・能力の向上を目的としてF D研修会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：平成31年3月12日（火）
- ・ 題目：講義型授業で使えるA Lの手法
- ・ 講師：明石工業高等専門学校 准教授 竹岡 篤永 氏

#### ⑥ 在校生等へのアンケート

在校生、平成30年度に卒業・修了する学生及び進学先（大学・企業）を対象として、平成31年3月にアンケートを実施した。

### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① J A B E E 継続審査に基づき、W及び[C]判定の評価項目について速やかに改善を行ったため、特に意見等なく継続が認められた。
- ② 授業評価アンケートは、平成28年度までは教員を限定して行っていたが、平成29年度以降は全教員対象に実施することとし、全教員へフィードバックし教育改善の一助都することが可能となった。  
これに併せて、実施形態を紙ベースでの回答からWEBからの回答に変更したが、従来に比べて回答率が低いため、今後は回答率を上げる方策を検討していく。
- ③ 教育の改善内容を協議する教育改善計画会議を今年度は、3回開催し、特に低学年の成績不振者の現状及び対応について情報を共有することができた。  
今後は、具体的な対応方策について、検討していく。
- ④ 参与会は、今回、高専の現状と未来及び本校教育システムと本校の重要課題である2つのテーマで開催し、各参与からいただいた助言及び評価を参考に今後の教育改善等に

努めていく。

- ⑤ F D研修会は、ここ数年 I C Tを活用したアクティブラーニング教育を題目として実施しているが、平成 30 年度は講義型授業で使えるアクティブラーニングの手法という題目で実施し、アクティブラーニング教育をより一層推進するための一助とした。

来年度もテーマを精査の上、実施していく。

- ⑤ 従来行っていた卒業生へのアンケートは、平成 30 年度は在校生及び進路先まで拡大して実施し教育改善等のための有効なデータを集積することができた。

次年度に結果を集計の上、データを共有した上で教育改善等を行っていく。

### (3) 今後の展開

次年度は機関別認証評価を受審するが、その結果を元により一層の教育点検・評価システムの強化を図っていく。

現在、評価等を行うため保管している答案等については紙ベースで保管しているが、効率化及び経費削減の観点からデータでの保管に切り替えることを検討していく。